

2011 年度 私立大学図書館協会研究助成「個人研究」
「大学図書館員の現状認識に関する意識調査」報告書

2012 年 4 月 30 日

鶴見大学図書館

長谷川豊祐

2011 年度 私立大学図書館協会研究助成「個人研究」
「大学図書館員の現状認識に関する意識調査」

目次

1. 背景と目的	2
2. 調査方法	4
3. 結果	7
4. 結論	16
参考文献	22

資料編

資料 1	研究計画概要(私立大学図書館協会研究助成申込書)	25
資料 2	審査結果(通知)	27
資料 3	意識調査への協力依頼状, 質問項目一覧	28
資料 4	Web 調査画面, 調査結果画面(部分)	33
資料 5	ご協力のお礼, 単純集計結果	38
資料 6	予備調査による調査項目決定の詳細	43

1. 背景と目的

1-1. 調査の背景

1-1-1. 顕在化する変化と要求

大学図書館は、ハーバード大学学長チャールズ・ウィリアム・エリオット (Charles William Eliot 1834-1926) によって「大学の心臓」(the heart of the University) と呼ばれて以来、大学における学習・教育・研究の拠点として発展してきた。日本の大学図書館も、設置母体である大学と共に、戦後の高度成長のもとで拡大を継続し、施設、蔵書、および人員の規模も、その過程で安定的に発展してきた。また、情報検索技術の発達と大学図書館業務の電算化は、図書館サービスの高度化を実現した。

しかし、近年の大学図書館を取り巻く環境の変化は急激である。具体的には、高度情報化社会、生涯学習社会、90年代からの規制緩和、市場メカニズムの導入、変貌する大学教員、多様化する学生、減少する18歳人口、大学の社会貢献など、大学を取り巻く環境は急激に変化している。環境の変化に対応して、大学図書館も変容しなければならないが、大学図書館の運営と、図書館職員意識は、外部環境の変化に対応しているとはいえない。

情報利用を激変させたインターネットと、少子化による経営悪化にあえぐ高等教育サービスの狭間で、大学図書館の存在意義が揺らいでいる。大学図書館は大きな変化の時代を迎え、高等教育や情報環境の変化により、大学図書館への要求が新たに発生している。以下に変化と要求を示す。

a) 変化

- 1) 大学運営では、高等教育や情報環境の変化による教育の構造変化
- 2) 情報専門職養成では、図書館情報学教育の再構築が進行中
- 3) 教育や養成の変化への対応により、大学図書館の役割と機能が高度化

b) 要求

- 1) 図書館に求められる高度な機能
- 2) 図書館員に求められる新たな能力

変化と要求の顕在化にもかかわらず、大学図書館の現場では、高等教育において果たすべき図書館機能の共通理解が大学内で不明確なまま、また、図書館や図書館員の位置付けが大学で認知されないまま、大きな変化の時代を迎えている。今後の大学図書館は、設置母体の厳しい財政状況を反映して、大学における単なるひとつの施設として運営され、単独の経営領域として独立し得ない組織へと変容する最悪のシナリオも考えられる。早急な変化と要求への対応が必要である。

1-1-2. 求められる機能と能力

大学図書館に求められている機能や、大学図書館員に求められている能力に関連している先行調査を概観する。

『大学図書館員の知識ベースと図書館情報学教育』¹⁾では、予め作成された大学図書館員に必要なと思われる39種の知識・技術の順位付けを行っている。

『大学改革と大学図書館の学習・教育支援機能』では、大学図書館の教育・学習支援機能を中

心に、その現状と課題を把握するために調査を実施し、学習・教育活動を支援する図書館サービス 14 項目と電子図書館的サービス 11 項目の実施状況と、今後の課題 17 項目の重要度をまとめている²⁾。更に、日米実態調査を実施し、“ポイントは大学内外の関係者とのコラボレーション／パートナーシップの構築である”とも提言している³⁾[p. 17]。

『情報専門職の養成に向けた図書館情報学教育体制の再構築に関する総合的研究』⁴⁾では、大学図書館員に必要な知識・技術の体系について、3つの知識ベースの領域に基づいた52の項目を示している。

『今後の「大学像」の在り方に関する調査研究(図書館)報告書』⁵⁾では、これからの大学図書館を考える上での状況、位置、及び今後の視点を概観した後、図書館業務に関して「学生の学習と図書館」「情報資源管理の方向性」「サービス展開の方向」「図書館の組織と人的資源管理」によって、大学図書館の機能や運営を広範囲に調査・分析している。

『電子情報環境下における大学図書館機能の再検討』⁶⁾では、大学図書館の実務や研究に関して「大学図書館の現状を把握するためのデータ収集の必要性」「高等教育における大学図書館機能の明確化」「利用研究の必要性」「科学技術政策、高等教育政策、出版流通などを含んだ総合的な研究アプローチの必要性」などを提言している。

『大学図書館の整備について(審議のまとめ)ー変革する大学にあって求められる大学図書館像ー』⁷⁾においても、学習支援や教育活動への直接の関与など、先行研究と方向性は一致している。更に「大学図書館の機能・役割及び戦略的な位置付け」と並んで「大学図書館職員の育成・確保」の必要性が大きく取り上げられている。

以上、全般的に、テクニカルサービスや資料提供より、利用者サービスや図書館運営に重点が移っているといえる。また、職員の持続的な成長の必要性も指摘されている⁸⁾。

先行調査¹⁾⁻⁸⁾による機能と要求を4つに区分して以下にリストした(表1)。

表1 図書館(員)に求められる機能や能力

経営
1) 高等教育における大学図書館機能の明確化 2) 大学図書館の機能・役割、戦略的な位置付け
顧客
3) 教員への教育支援機能と、学生への学習支援機能 4) 利用研究 5) 大学図書館の現状把握のためのデータ収集
業務
6) 科学技術政策、高等教育政策、出版流通などを含んだ総合的な研究アプローチの必要性 7) 電子図書館的サービスの展開、拡充 8) 情報資源管理やサービス展開の方向性
職員
9) 図書館の組織と人的資源管理の方向性 10) 学習支援や教育活動への直接の関与 11) 大学内外の関係者とのコラボレーション、パートナーシップの構築 12) 大学図書館職員の持続的な育成・確保

大学図書館に求められる機能と能力は、資料組織に関わるテクニカルサービスや、単純に資料を書架に並べるだけの資料提供から転換し、経営的な視点、サービス領域の広範囲な拡大、さらに、広範囲な人的支援が求められている。

1-2. 調査の目的

1-2-1. これまでの調査の概要

これまでに実施した調査⁹⁾⁻¹⁷⁾により、わが国における大学図書館の現在に至るまでの発展について、職員数、電算化、情報検索、図書館サービス、資料費など、大学図書館の運営や機能に強い影響を与えた5つの観点から、以下の通り、大学図書館の発展過程の概要を明らかにしてきた。

大学図書館における1996年以降の職員数については、専任職員は減少しているものの、派遣職員や業務委託などの雇用形態の多様化による総職員数は維持されている⁹⁾⁻¹⁰⁾。しかし、増減に関しては、雇用形態による職員数の割合や、専任職員の減少幅、及び、利用者数や蔵書数に応じた職員数の充足率は、個々の図書館間において大きく異なっている⁹⁾⁻¹¹⁾。

1980年以降の業務電算化の普及と、1970年以降の情報検索技術の発達は、大学図書館における業務の効率化と高度化を実現している¹²⁾⁻¹³⁾。また、大学図書館における文献複写依頼件数の変化に関しても、利用者の変化とともに、図書館の外からの技術革新が大きく作用している¹⁴⁾。

結果として、雇用形態の多様化と、図書館業務に関わる情報通信技術の発達の二点が、図書館サービスの量的拡大への対処と、質の維持に大きく貢献していることがわかる。

図書館サービスに関しては、大学図書館に限定できないものの、研究論文の発表数から、「情報サービス・情報管理」、「図書館活動」が増加し、「図書館資料」が減少し¹⁵⁾、テクニカルサービスからパブリックサービスに重点が移っている。また、資料費に関しては、1996年以降の変化の一点目として、図書館費、運営費、資料費の金額と比率は大学図書館全体では変化していないものの、個々の館では増減に差があること、二点目として、図書費から雑誌費にシフトしていることの二点が明らかである¹⁶⁾。結果として、サービスや予算が重点を移行している傾向は全体的といえるものの、資料費と職員数の変化に関する調査からも明らかなように、職員数と資料費に関しては、個々の大学図書館間における変化の内容は大きく異なる。

1-2-2. 目的

本研究では、これまでの調査⁹⁾⁻¹⁶⁾によって明らかになった図書館間における差を一步すすめて、個々人の大学図書館員の意識に関する悉皆調査を実施し、大学図書館の現状と、現状に至った過程の課題構造を解明するための基礎的データを収集・分析する。大学図書館員への意識調査意の調査項目として、大学図書館に関する知識と、高等教育や情報環境に対する現状認識の二つを設定することにより、大学図書館員の現状認識を明らかにし、変化への対応の実現可能性について検討を加える。

2. 調査方法

調査は、全国の全大学図書館の中央館宛に「大学図書館職員の意識調査へのご協力のお願ひ」(資料3)と、大学図書館職員宛の「大学図書館職員の意識調査(Web調査)へのご協力のお願ひ」(資料3)を郵送した。大学図書館職員宛の「大学図書館職員の意識調査(Web調査)へのご協力のお願ひ」

は、『日本の図書館』の各館の職員数をもとにして、各館に20枚から300枚を同封して、一人ひとりの職員の手元に協力依頼が届くように配慮した。また、大学図書館職員宛の「大学図書館職員の意識調査(Web調査)へのご協力をお願い」には、Webでの回答手順と、事前にアンケート項目が把握できるように、全アンケート項目を記すようにした。

調査対象：全国の大学図書館に勤務する専任・非専任の全職員(表2)

表2 大学図書館と図書館員の数(『日本の図書館2010』より)

2010	国立	公立	私立	計
図書館数(館)	293	124	979	1,396
本館数(館)	86	80	591	757
専従(名)	1,658	311	3,254	5,223
兼務(名)	237	126	873	1,236
非常勤(名)	1,239	343	1,022	2,604
臨時(名)	315	115	1,466	1,896
派遣等(名)	129	142	2,507	2,778
計(名)	3,578	1,037	9,122	13,737

予備調査：調査項目確定のためのSWOT分析を用いたグループインタビュー

Web質問紙調査：調査項目(資料3)、Webの回答画面(資料4)

放送大学ICT活用・遠隔教育センター「REAS：リアルタイム評価支援システム」

<<https://reas2.code.ouj.ac.jp/>>を利用

聞き取り調査：課題構造の把握

調査日程：2011年3月29日 予備調査(1)質問項目抽出のためのSWOT分析

2011年4月7日 予備調査(2)質問項目確定のための検討会

2011年11月22日 Web調査開始(～12月28日終了)

2011年11月24日 委託業者(警備)への聞き取り調査

2011年12月3日 地元書店への聞き取り調査

2011年12月16日 委託業者(施設管理)への聞き取り調査

2011年12月21日 大手書店への聞き取り調査

2011年12月23日 名古屋大学への聞き取り調査

2011年12月27日 福岡歯科大学への聞き取り調査

2011年12月28日 Web調査終了(開始11月22日～)

2-1. 意識調査の項目

以下の予備調査によって、財務(7項目)、顧客(5項目)、プロセス(5項目)、成長(7項目)の4つに区分して24項目の意識調査項目(案)を決定した¹⁷⁾⁻¹⁸⁾。最終的には、4項目の追加と5項目の区分変更により、図書館の内部業務(8項目)、顧客サービス(7項目)、職員・人材育成・研修(5項目)、経営管理(8項目)の28項目とした(表3)。予備調査による調査項目決定の詳細は、「資料編」(資料6)を参照のこと。

a)調査対象者：大学図書館員9名、図書館情報学専攻大学院生1名、図書館員4名は管理職

b)データ収集方法：グループインタビューと電子メール

c)収集データ数：170件(SWOT分析用：機会37件、脅威40件、強み40件、弱み53件)

4区分した28項目の意識調査項目の回答後に、図書館の現状について、外部要因(機会、脅威)と内部要因(強み、弱み)に関して、自由記述によるデータを収集した。意識調査項目への回答によって、職場の現状を包括的に把握でき、現状の自由記述に回答しやすい設問の配置とした。

表3 意識調査項目

<p>a) 図書館の内部業務について [プロセス(内部業務, 関連業界)]</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・ データベースや電子ジャーナルなどの外部資源や, IT 技術を活用している ・ 組織の活性化, 業務と組織の再構築に務めている ・ 蔵書の重要性を再評価し, サービスや予算を考慮した蔵書構築を行っている ・ 業務電算化システム, ネットワーク, 施設・設備などのインフラ整備に務めている ・ 将来計画の策定と実施に務めている ・ 図書館運営やサービス提供において, 学生や教員との連携を行なっている ・ 図書館内部での業務分担や人員の配置では, 人材活用の自由度が高いが, その利点を活かしている ・ 情報化や学習環境の変化への対応を行っている(情報発信へ転換)
<p>b) 顧客サービスについて [顧客(利用者, 競争相手, 市場)]</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・ 学生の成長を支援している(学士力, 利用者満足度など) ・ 学生と研究者の利用要求を満たして, その満足度は高い ・ 利用者の要求の理解に努めている ・ 学習支援を重視している(機関リポジトリと人的支援の両輪) ・ 機関リポジトリによる研究支援に務めている(学習支援と人的支援の両輪) ・ 利用者研究の実施に務めている(学生, 教員, 学科との協働) ・ 図書館の提供しているサービスに関して, 学内での評価が向上している
<p>c) 職員, 人材育成, 研修について [成長(学習, 人材, 文化)]</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・ 館員は, 利用者, 他部署, 同僚との十分なコミュニケーション能力を備えている ・ 図書館全体として, サービス提供や教員との連携を円滑な実現できる幅広い教養を, 図書館員が備えている(リエゾンライブラリアン:連絡調整担当図書館員, 「御用聞き」) ・ 図書館同士や業界関連のコミュニティー活動は活発である(町内会や商工会などの地域コミュニティーや, 図書館コンソーシアムなどへの参加や貢献) ・ 図書館では持続的な人的資源管理に務めている(モチベーションの維持, 前向きな職員の活用, 成長の望めない職員への対応, 世代間格差より個人差の拡大, 従業員の満足度など) ・ 館員は, 熱意をもって業務に取り組み, 業務遂行に達成感を見いだしている
<p>d) 経営管理について [財務(予算, 経営)]</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・ 理事会, 学長, 事務局長などの大学のトップ層にはマネジメント能力がある(専任・専門職館長と同じ状況, 人材確保ができればよい) ・ 大学のミッションが確立していて, 教職員がミッションを理解して業務を遂行している(ミッションの各部署や業務単位へのブレイクダウン) ・ 大学では, 有効な人事制度の確立や人材活用に務めている(技術よりパーソナリティに優れた人材確保など) ・ 図書館運営と大学経営との連携がある(私立大学本部の図書館運営会議や, 国立大学の図書館担当理事など) ・ 図書館経営資源(人員, 予算, 施設・設備)を確保する努力がなされている(運営の効率化, 少人数スタッフ, 業務委託) ・ 図書館経営計画を策定し, 実施している(人材はいるか) ・ 館長や事務組織上のトップ主導の経営がなされている ・ 図書館のミッションが確立されている

2-2. 大学図書館の職員に必要な知識・技術

大学図書館員に必要な知識・技術について、先行調査である1989年の『大学図書館員の知識ベースと図書館情報学教育』¹⁾における39項目と、2004年の『情報専門職の養成に向けた図書館情報学教育体制の再構築に関する総合的研究』⁴⁾における52項目と、必要とされる知識・技術の順位の変化を比較する。そのため、後者の52項目を調査項目として設定した。

3. 結果

3-1. 回答数と回答率

Web調査回答者数は1,709名、有効回答は1,610名であった。『日本の図書館 2010年版』の全大学図書館員数13,737名では11.7%の回答率となる。『平成22年度学術情報基盤実態調査結果報告』の全大学図書館員数12,299名の13.1%の回答率となる。

回答者の属性について、クロス分析のために、大学種別、職務内容、資格、性別、最終学歴、勤務形態、年齢、通算図書館勤務年数、職名、所属部署名の10項目を、問1から問10で調査している。

更に、参考データとして、[問1]大学種別、[問2]職務内容、[問3]資格、[問5]最終学歴、[問6]勤務形態、[問7]年齢の6項目については、以下の通り、他の統計調査との比較を、結果の各表の最終列に示した。

項目	略記	統計調査と年度
[問1]大学種別, [問2]職務内容, [問3]資格, [問6]勤務形態	基22	平成22(2010)年度学術情報基盤実態調査結果報告
[問5]最終学歴	基06	平成6(1994)年度大学図書館実態調査結果報告
[問6]勤務形態	JLA	日本の図書館 2010年版
[問7]年齢	基17	平成17(2005)年度学術情報基盤実態調査結果報告

(学術情報基盤実態調査結果報告は、平成16(2004)年度までは大学図書館実態調査結果報告)

調査回答者の大学種別、職務内容、及び、兼務形態の割合は、『平成22年度学術情報基盤実態調査結果報告』のデータとほぼ同じ割合となっている。一部の属性における差については、以下の各設問の結果で述べるが、回答者の属性については、ほぼ現状における属性の割合を反映したものとされていると考えることができる。

3-2. 各設問の結果

3-2-1. [問1] 勤務先の大学種別

	人数(人)	割合(%)	基22(人)	基22 (%)
国立	306	19.0	3,778	30.7
公立	127	7.9	871	7.1
私立	1176	73.0	7,650	62.0
その他	1	0.1		
計	1,610	100.0	12,299	100.0

『平成22年度学術情報基盤実態調査結果報告』(以下、H22基盤調査)の大学種別における職員割合と、回答者割合を比較すると、大学種別では私立大学からの回答率が高く、国立大学の回答率が低い。

3-2-2. [問 2] 職務内容

(注1：管理職には、館長から、課長補佐相当以上を含みます)

	人数(人)	割合(%)	基 22(人)	基 22 (%)		人数(人)	割合(%)	基 22(人)	基 22(%)
管理職(注 1)	228	14.2	1,135	9.2	閲覧	292	18.1	2,822	22.9
庶務・会計	69	4.3	650	5.3	参考	84	5.2	577	4.7
情報処理	59	3.7	286	2.3	複写	50	3.1	246	2.0
受入	167	10.4	1,360	11.1	業務全般	427	26.5	3,334	27.1
整理	140	8.7	1,445	11.7	その他	94	5.8	444	3.6
					計	1610	100.0	12,299	100.0

職務内容では、H22 基盤調査と比較して、管理職の回答率が高く、閲覧担当の回答率が低い。それ以外の職務内容では、H22 基盤調査の職務内容の割合と一致している。

3-2-3. [問 3] 資格

(注 2：情報検索能力試験には、データベース検索技術者認定試験を含む)

(注 3：国家公務員試験には、II 種試験[書館学]，上級・中級試験[図書館学]，国立学校図書専門職員採用試験を含む)
設問回答者数 1,610 名(複数回答可)

	人数(人)	割合(%)	基 22(人)	基 22(%)
情報処理技術者	96	6.0	237	1.9
情報検索能力試験(注 2)	117	7.3		
司書	1,222	75.9	6,592	53.6
司書補	25	1.6	82	0.7
国家公務員試験，国立大学法人等職員採用試験(注 3)	205	12.7	874	23.1
その他	192	11.9		
計	1,867	116.0	7,785	79.3

資格では、H22 基盤調査と比較して、情報処理技術者と司書の回答率が高い。

3-2-4. [問 4] 性別

	人数(人)	割合(%)
男	438	27.3
女	1,169	72.7
計	1,607	100.0

回答者の男女比は 3 対 7 である。

3-2-5. [問 5] 最終学歴

	人数(人)	割合(%)	基 06(人)	基 06(%)
高校・旧中	57	3.5	2,968	23.2
短大 高専・旧専	231	14.4	2,510	19.6
高専	8	0.5		
大学	1,133	70.5	6,720	52.6
大学院	168	10.4	435	3.4
その他	11	0.7	150	1.2
計	1,608	100.0	12,783	100.0

回答者の最終学歴の比率は、H22 基盤調査では、大学、高校、短大、大学院の順となっている。回答者の比率では、大学と大学院の回答率が高く、大学、短大、大学院、高校の順となっている。

3-2-6. [問 6] 勤務形態

勤務形態については、専任、非常勤・嘱託、派遣、委託、その他(臨時:パート、アルバイト)の 5 種類とした。JLA にある兼任は専任とみなし、非常勤職員は雇用保険に加入する 1 年単位の契約の

職員と解釈している。

専任の回答数に占める割合は半分以上であるが、H22 基盤調査、JLA と大きな差はない。

派遣と委託の図書館職員の方からの回答数と回答数に占める割合は、それぞれ派遣 129 名 (8.1%) と、派遣 288 名 (18.0%) であり、合わせて回答全体の 1/4 以上となった。

パートとアルバイトは、当初は調査対象として予定していなかったものの、勤務年数が長いなど、回答希望があり、「その他」にパートとアルバイトを含めた。回答数と回答数に占める割合は 53 名 (3.3%) であった。

	人数(人)	割合(%)	基 22	基 22(人)	基 22(%)	JLA(人)	JLA(%)
専任	890	55.7	専任	5,780	47.0	4,729	38.8
(兼任)						962	7.9
非常勤・嘱託	239	14.9	臨時	6,519	53.0	2,290	18.8
派遣	129	8.1				2,516	20.6
委託	288	18.0					
その他、臨時	53	3.3				1,699	13.9
計	1,599	100.0		12,299	100.0	12,196	100.0

3-2-7. [問 7] 年齢

年齢についても、7 年前のデータではあるが、H17 基盤調査と大きな差はない。25 歳から 39 歳までで、回答数の半分以上を占めている。

[基 17 の年齢区分を“/nn”として右側に示した]

	人数 (人)	割合 (%)	基17(人)	基17(%)		人数 (人)	割合 (%)	基17(人)	基17(%)
19 歳以下 /~20	0	0.0	252	1.8	45~49 歳 /46~	173	10.8	2,913	21.2
20~24 歳 /21~	50	3.1	1,968	14.3	50~54 歳	10.3	10.3		
25~29 歳 /26~	251	15.7	2,066	15.0	55~59 歳 /56~	133	8.3	1,796	13.0
30~34 歳 /31~	307	19.2	1,922	14.0	60 歳以上 /64~	74	4.6	194	1.4
35~39 歳 /36~	248	15.5	2,659	19.3	計	1,600	100.0	13,770	100.0
40~44 歳	200	12.5							

3-2-8. [問 8] 通算図書館勤務年数

1 年から 10 年の通算図書館勤務年数の回答者で、回答数の半分以上を占めている。

	人数(人)	割合(%)		人数(人)	割合(%)
1 年未満	135	8.4	26~30 年	81	5.1
1~5 年	505	31.5	31~35 年	61	3.8
6~10 年	366	22.8	36~40 年	37	2.3
11~15 年	186	11.6	41 年以上	8	0.5
16~20 年	131	8.2	計	1,602	100.0
21~25 年	92	5.7			

3-2-9. [問 9] 役職名

設問回答者数は 1,156 名であった。

3-2-10. [問 10] 所属部・課・係名

設問回答者数は 1,402 名であった。

参考担当について、所属部・課・係名を以下に示す。レファレンス、参考調査、情報サービス

という名称が多い。部・課・係，グループ，担当と多様な運用形態である。

課	係	グループ, 担当
・ ライブラリーサービス課	・ eリソースサポート係	・ 利用者支援グループ
・ レファレンス課	・ サービス係	・ 医学情報グループ
・ 学術情報課	・ レファレンス係	・ 情報サービスグループ
・ 司書課	・ 運用係	・ 情報チーム
・ 資料サービス課	・ 学術情報サービス課情報調査係	・ 図書学術情報普及グループ
・ 情報サービス課	・ 参考閲覧係	・ 利用者支援グループ
・ 図書課	・ 参考係	
・ 図書館サービス課	・ 情報サービス課参考調査掛	・ サービス担当
・ 図書館運営課	・ 情報サービス係	・ レファレンス担当
・ 図書館課情報サービス係	・ 図書館情報課情報サービス係	・ 学術情報サービス主担当
・ 図書館事務課	・ 図書館参考係	・ 学術情報担当
・ 図書情報課	・ 情報サービス課参考係	・ 参考調査担当
・ 図書部図書課	・ 図書情報課レファレンス係	・ 情報サービス担当
・ 大学図書館情報サービス課	・ 情報サービス課参考調査掛	・ 相談サービス主担当
・ 利用者支援課	・ 利用者サービス係	・ 調査相談サービス主担当

3-2-11. [問 11] 図書館の内部業務についての現状認識

回答数=Yes の数 + No の数 + 不明の数,

スコア=((Yes 数 x 1) + (No 数 x -1) + (不明数 x 0)) / 回答数,

スコアの最大 +1.0, 最小 -1.0, 以下, 問 14 まで同様。

[問 11]から[問 14]までの現状認識について、『内部業務』と『顧客サービス』の実施状況についての認識はスコアが高い。『人材育成』と『経営管理』の実施状況についての認識のスコアが低い。

	Yes	No	不明	回答数	スコア	順位
データベースや電子ジャーナルなどの外部資源や, IT 技術を活用している	1,470	90	49	1,609	0.86	1
組織の活性化, 業務と組織の再構築に務めている	899	317	387	1,603	0.36	10
蔵書の重要性を認識し, サービスや予算を考慮した蔵書構築を行っている	1,147	189	271	1,607	0.60	5
業務電算化システム, ネットワーク, 施設・設備などのインフラ整備を行なっている	1,233	154	219	1,606	0.67	4
将来計画の策定と実施を行なっている	817	317	470	1,604	0.31	11
図書館運営やサービス提供において, 学生や教員との連携を行なっている	1,141	243	219	1,603	0.56	7
館内での業務分担や人員配置は, 人材活用の自由度が高く, それを活かしている	566	658	380	1,604	-0.06	27
情報化や学習環境の変化への対応を行っている	1,126	224	255	1,605	0.56	6

3-2-12. [問 12] 顧客サービスについての現状認識

	Yes	No	不明	回答数	スコア	順位
学生の成長を支援している	1,295	112	198	1,605	0.74	2
学生と研究者の利用要求を満たして, その満足度は高い	503	303	797	1,603	0.12	18
利用者の要求を理解している	892	198	511	1,601	0.43	9
学習支援を重視している	1,232	153	219	1,604	0.67	3
機関リポジトリの実施に務めている	841	467	293	1,601	0.23	13
利用者研究や利用実態調査の実施に努めている	715	479	404	1,598	0.15	15
図書館の提供しているサービスに関して, 学内での評価が向上している	445	247	909	1,601	0.12	19

3-2-13. [問 13] 職員、人材育成、研修についての現状認識

	Yes	No	不明	回答数	スコア	順位
館員は、利用者、他部署、同僚との十分なコミュニケーション能力を備えている	782	403	419	1,604	0.24	12
サービス提供や教員連携を円滑に実現できる教養を、館員全体として備えている	500	575	527	1,602	-0.05	26
図書館同士や業界関連のコミュニティー活動は活発である	590	525	487	1,602	0.04	23
図書館では人的資源管理(モチベーション維持、職員有効活用)を行なっている	520	568	511	1,599	-0.03	25
館員は、熱意をもって業務に取り組み、業務遂行に達成感を見いだしている	913	192	498	1,603	0.45	8

3-2-14. [問 14] 経営管理についての現状認識

	Yes	No	不明	回答数	スコア	順位
理事会、学長、事務局長などの大学のトップ層にはマネジメント能力がある	416	309	881	1,606	0.07	22
大学のミッションが確立し、教職員はミッションを理解して業務を遂行している	493	281	830	1,604	0.13	17
大学では、有効な人事制度の確立や人材活用を行なっている	271	512	820	1,603	-0.15	28
図書館運営と大学経営との連携がある	471	471	661	1,603	0.00	24
図書館経営資源(人員、予算、施設・設備)を確保する努力がなされている	716	400	489	1,605	0.20	14
図書館経営計画を策定し、実施している	572	381	648	1,601	0.12	21
館長や事務組織上のトップ主導の経営がなされている	615	390	597	1,602	0.14	16
図書館のミッションが確立されている	582	385	636	1,603	0.12	20

[問 11]から[問 14]までの現状認識の項目をスコア順に再配列する。

	項目	11:内部業務, 12:顧客対応, 13:人材育成, 14:経営管理	スコア	順位
11.1	IT 活用	データベースや電子ジャーナルなどの外部資源や、IT 技術を活用している	0.857	1
12.1	成長支援	学生の成長を支援している	0.738	2
12.4	学習支援	学習支援を重視している	0.673	3
11.4	インフラ	業務電算化システム、ネットワーク、施設・設備などのインフラ整備を行なっている	0.671	4
11.3	蔵書構築	蔵書の重要性を認識し、サービスや予算を考慮した蔵書構築を行っている	0.596	5
11.8	環境対応	情報化や学習環境の変化への対応を行っている	0.562	6
11.6	連携	図書館運営やサービス提供において、学生や教員との連携を行なっている	0.562	7
13.5	熱意と達成感	館員は、熱意をもって業務に取り組み、業務遂行に達成感を見いだしている	0.448	8
12.3	要求理解	利用者の要求を理解している	0.433	9
11.2	組織再構築	組織の活性化、業務と組織の再構築に務めている	0.363	10
11.5	将来計画	将来計画の策定と実施を行なっている	0.311	11
13.1	Communication	館員は、利用者、他部署、同僚との十分なコミュニケーション能力を備えている	0.235	12
12.5	リポジトリ	機関リポジトリの実施に務めている	0.232	13
14.5	資源確保	図書館経営資源(人員、予算、施設・設備)を確保する努力がなされている	0.197	14
12.6	利用調査	利用者研究や利用実態調査の実施に努めている	0.149	15
14.7	トップ主導	館長や事務組織上のトップ主導の経営がなされている	0.141	16
14.2	大学の使命	大学のミッションが確立し、教職員はミッションを理解して業務を遂行している	0.135	17
12.2	要求満足	学生と研究者の利用要求を満たして、その満足度は高い	0.124	18
12.7	評価向上	図書館の提供しているサービスに関して、学内での評価が向上している	0.123	19
14.8	図書館使命	図書館のミッションが確立されている	0.123	20
14.6	経営計画	図書館経営計画を策定し、実施している	0.118	21
14.1	トップ経営	理事会、学長、事務局長などの大学のトップ層にはマネジメント能力がある	0.066	22
13.3	Community	図書館同士や業界関連のコミュニティー活動は活発である	0.038	23
14.4	経営連携	図書館運営と大学経営との連携がある	0.000	24
13.4	人的資源管理	図書館では人的資源管理(モチベーション維持、職員有効活用)を行なっている	-0.031	25
13.2	教養	サービス提供や教員連携を円滑に実現できる教養を、館員全体として備えている	-0.048	26
11.7	人材活用	館内での業務分担や人員配置は、人材活用の自由度が高く、それを活かしている	-0.058	27
14.3	人事制度	大学では、有効な人事制度の確立や人材活用を行なっている	-0.151	28

「データベースや電子ジャーナルなどの外部資源や、IT 技術を活用している」と「業務電算化システム、ネットワーク、施設・設備などのインフラ整備を行なっている」の情報技術の活用、「学生の成長を支援している」と「学習支援を重視している」の学習支援、「蔵書の重要性を認識し、サービスや予算を考慮した蔵書構築を行っている」の資料の充実のスコアが高い。

「大学では、有効な人事制度の確立や人材活用を行なっている」「館内での業務分担や人員配置は、人材活用の自由度が高く、それを活かしている」「図書館では人的資源管理(モチベーション維持、職員有効活用)を行なっている」「サービス提供や教員連携を円滑に実現できる教養を、館員全体として備えている」など、人材の活用や育成に関してのスコアが低い。一方で、「館員は、熱意をもって業務に取り組み、業務遂行に達成感を見いだしている」のスコアは8位、「組織の活性化、業務と組織の再構築に務めている」のスコアは10位と高くなっている。

3-2-15. [問 15] 「強み」について

顧客や設置母体から評価され、自信を持って提供できる「強み」(人材、資料、技術、環境)を、具体的に記述。設問回答者数 1,152 名。

文章中からキーワードの自動抽出を行なう「言選 Web」¹⁹⁾により、調査の記述から重要なキーワードを抽出し、上位 100 位までのキーワードを、サービス、資料、施設、利用者、職員、運営の6つに区分した。キーワードによって大学図書館における「強み」の概要を知ることができる。サービスと資料に大学図書館の「強み」があると認識されている。

サービス	資料	施設	利用者	職員	運営
図書館ガイダンス 利用者教育 利用者支援 連携 機関リポジトリ 学習支援	蔵書構成 資料収集 蔵書、蔵書数 資料数 図書、専門書 専門図書 データベース 電子ジャーナル 電子資料 貴重資料 貴重書 地域資料	学習環境 図書館施設 小規模図書館	学外利用者 地域住民	スタッフ 専門性 人材	

3-2-16. [問 16] 「弱み」について

業務やサービスを展開する際に、図書館の「弱み」となっている事柄を、具体的に記述。設問回答者数 1,191 名。

「強み」と同様に、調査の記述から重要なキーワードを抽出し、上位 100 位までのキーワードを、サービス、資料、施設、利用者、職員、運営の6つに区分した。

職員と運営に大学図書館の「弱み」があると認識されている。また、施設に関しても狭隘化と老朽化が「弱み」として認識されている。

サービス	資料	施設	利用者	職員	運営
		狭隘化 老朽化 スペース		意識, 能力 職員数 人材不足 人員不足 人材, 人材育成 専門, 専門性 専門知識 高齢化 専任, 専任職員 正規職員 非常勤職員 委託, 委託業務 委託職員	予算 予算不足 業務委託 異動 人事異動

3-2-17. [問 17] 「機会」について

設置母体の大学や社会的状況で、業務やサービスを展開する際の「機会」や「チャンス」となる事柄を、具体的に記述。設問回答者数 971 名。

サービス, 利用者, 運営が「機会」と認識されている。

サービス	資料	施設	利用者	職員	運営
機関リポジトリ 情報発信 情報リテラシー 学習支援 利用者教育 情報リテラシー教育 ガイダンス オープンキャンパス 図書館見学 公開講座 展示, イベント	電子化	図書館建設	一般利用者 社会人学生 学外利用者 地域社会 地域住民 公共図書館 地域		連携 開放 地域貢献 地域連携

3-2-18. [問 18] 「脅威」について

設置母体の大学や社会の状況で、業務やサービスを展開する際の「障害」や「脅威」となる事柄を、具体的に記述。設問回答者数 1,074 名。

職員と運営が「脅威」と認識されている。

サービス	資料	施設	利用者	職員	運営
サービス低下 図書館離れ		狭隘化		人員削減 委託 業務委託 業務委託化	少子化, 高齢化 若年者人口 大学運営 大学予算 図書館予算 経費削減 予算減 予算削減 予算不足 資料購入費 人件費削減 人事異動 経営者 管理職

3-2-19. [問 19] 資料・メディアに関する知識

スコア=((ぜひ必要 x 2) + (どちらかといえば必要 x 1)
+ (あまり必要ない x 0) + (不要 x -1)) / 回答数,
スコアの最大 +2.0, 最小 -1.0, 以下, 「問 23」まで同様。

	ぜひ必要	どちらか といえば 必要	あまり必 要ない	不要	回答数	スコア	順位
出版流通／学術情報流通	803	692	46	2	1,543	1.49	24
ネットワーク情報資源	1,137	397	9	4	1,574	1.72	7
逐次刊行物	1,035	481	27	2	1,545	1.65	15
電子ジャーナル	1,238	297	8	3	1,546	1.79	4
分野別専門資料／情報源	941	579	23	1	1,544	1.59	19
古典籍(西洋古典を含む)	329	943	255	19	1,546	1.02	47
官庁刊行物・特許資料／情報	474	893	172	5	1,544	1.19	40
その他の非図書資料, 利用機器	397	995	140	7	1,539	1.16	41
二次資料・参考図書と検索サービス	1,126	392	23	3	1,544	1.71	9
資料選択	1,013	494	31	5	1,543	1.63	16
コレクション構築と評価	710	696	122	14	1,542	1.36	34
資料保存・保護・製本	803	659	72	8	1,542	1.46	27
メディアの歴史	188	887	431	38	1,544	0.79	51

3-2-20. [問 20] 組織化に関する知識

	ぜひ必要	どちらか といえば 必要	あまり必 要ない	不要	回答数	スコア	順位
資料目録法・Online 目録 System	1,100	402	22	1	1,525	1.71	11
メタデータ	637	786	95	2	1,520	1.35	35
分類法・件名法	959	515	49	3	1,526	1.59	20
索引法, 抄録法	620	767	130	5	1,522	1.32	37
二次資料／データベース作成	647	759	110	4	1,520	1.35	36

3-2-21 [問 21] サービスに関する知識

	ぜひ必要	どちらか といえば 必要	あまり必 要ない	不要	回答数	スコア	順位
レファレンス・サービス	1,409	128	4	2	1,543	1.91	2
情報検索技術	1,413	126	1	2	1,542	1.91	1
利用教育, 情報リテラシー	1,305	228	2	3	1,538	1.84	3
閲覧・貸出サービス	1,138	355	40	5	1,538	1.71	10
ドキュメントデリバリーサービス	585	797	137	10	1,529	1.28	38
知的財産権・著作権	1,124	392	18	2	1,536	1.72	8
図書館ネットワーク・図書館協力	1,098	424	13	3	1,538	1.70	12
障害者サービス	713	745	76	4	1,538	1.41	30
利用者のプライバシー	1,173	347	15	3	1,538	1.75	6
カスタマケア(問合せ・相談対応)	1,089	422	21	4	1,536	1.69	14

3-2-22. [問 22] マネジメントに関する知識

	ぜひ必要	どちらか とえば 必要	あまり必 要ない	不要	回答数	スコア	順位
経営理論・手法	459	824	216	22	1,521	1.13	44
大学行財政	455	826	220	21	1,522	1.13	45
予算管理・会計	753	664	92	13	1,522	1.42	29
広報活動	997	477	46	6	1,526	1.62	18
図書館関係法規・基準	843	613	63	4	1,523	1.51	22
図書館建築・設備・備品	659	782	77	6	1,524	1.37	33

3-2-23. [問 23] その他の知識

	ぜひ必要	どちらか とえば 必要	あまり必 要ない	不要	回答数	スコア	順位
図書館業務システムの運用, 管理	1,096	406	24	3	1,529	1.70	13
データベース等の運用, 管理	1,012	470	46	6	1,534	1.62	17
ネットワークの運用, 管理	733	659	122	12	1,526	1.38	32
プログラミング	128	704	610	89	1,531	0.57	52
ウェブコンテンツの構築, 管理	470	820	221	19	1,530	1.14	43
主題専門知識	799	654	70	6	1,529	1.47	26
外国語:英語	802	687	40	6	1,535	1.49	23
外国語:英語以外	252	961	298	16	1,527	0.95	49
プレゼンテーション技術	732	664	127	8	1,531	1.38	31
文書・企画書の作成	822	622	87	4	1,535	1.47	25
会話・接遇	1,196	319	16	3	1,534	1.77	5
研究調査法	768	641	116	6	1,531	1.42	28
利用教育, 職員研修での教授法	873	568	82	6	1,529	1.51	21
知的自由・検閲	524	821	172	11	1,528	1.22	39
外国大学図書館事情	253	985	271	26	1,535	0.95	48
高等教育事情	421	859	228	22	1,530	1.10	46
図書館史	273	838	383	34	1,528	0.88	50
書誌学	482	823	203	21	1,529	1.16	42

[問 19]から[問 23]では、『サービス』に関する知識の必要性についてスコアが高い。『組織化』と『マネジメント』に関する知識の必要性についてスコアが低い。

「情報検索技術」「レファレンス・サービス」「利用教育, 情報リテラシー」のスコアが高いが、スコアの最大 1.91, 最小 0.57 で、1.0 以下は「外国大学図書館事情」「外国語:英語以外」「図書館史」「メディアの歴史」「プログラミング」の 5 項目と、全体的なスコアの差は大きくはない。

3-2-24. [問 24] 自由記入

設問回答者数 470 名。

4. 結論

4-1. 属性による現状認識

大学種別によって現状認識のスコアを比較する。10位までの上位の項目は、大学種別による差はない。

項目	国立 (n=304 ~306)	no	公立 (n=124 ~126)	no	私立 (n=1167 ~1176)	no	その他 (n=1)	合計 (n=1598 ~1609)	no
11.1 IT 活用	0.922	1	0.841	1	0.844	1	-1.000	0.858	1
12.1 成長支援	0.633	5	0.722	2	0.766	2	1.000	0.737	2
12.4 学習支援	0.607	6	0.704	3	0.686	3	1.000	0.673	3
11.4 インフラ	0.820	2	0.672	5	0.633	4	1.000	0.672	4
11.3 蔵書構築	0.520	9	0.696	4	0.607	5	-1.000	0.596	5
11.8 環境対応	0.719	4	0.376	9	0.540	7	1.000	0.562	6
11.6 連携	0.529	8	0.600	7	0.564	6	1.000	0.560	7
13.5 熱意と達成感	0.388	12	0.635	6	0.445	9	1.000	0.450	8
12.3 要求理解	0.349	13	0.468	8	0.451	8	1.000	0.433	9
11.2 組織再構築	0.452	10	0.176	14	0.359	10	1.000	0.363	10
11.5 将来計画	0.541	7	0.264	12	0.258	11	-1.000	0.312	11
13.1 Communication	0.148	20	0.357	10	0.246	12	1.000	0.236	12
12.5 リポジトリ	0.797	3	0.008	23	0.112	19	-1.000	0.234	13
14.5 資源確保	0.389	11	0.144	15	0.152	14	1.000	0.197	14
12.6 利用調査	0.144	21	0.104	16	0.154	13	-1.000	0.148	15
14.7 トップ主導	0.252	15	-0.112	27	0.139	16	-1.000	0.140	16
14.2 大学の使命	0.127	22	0.280	11	0.117	18	1.000	0.132	17
12.2 要求満足	0.072	24	0.079	21	0.143	15	0.000	0.125	18
12.7 評価向上	0.161	18	0.096	18	0.117	17	0.000	0.124	19
14.8 図書館使命	0.212	16	0.096	17	0.102	20	1.000	0.123	20
14.6 経営計画	0.338	14	0.073	22	0.068	21	-1.000	0.119	21
14.1 トップ経営	0.118	23	0.200	13	0.038	22	1.000	0.067	22
13.3 Community	0.168	17	0.088	19	0.003	23	-1.000	0.041	23
14.4 経営連携	0.157	19	-0.040	26	-0.038	26	1.000	0.000	24
13.4 人的資源管理	-0.046	25	-0.032	25	-0.026	24	1.000	-0.030	25
13.2 教養	-0.086	26	0.000	24	-0.042	27	0.000	-0.047	26
11.7 人材活用	-0.232	28	0.080	20	-0.027	25	1.000	-0.057	27
14.3 人事制度	-0.161	27	-0.136	28	-0.150	28	1.000	-0.150	28

この後で分析した職務内容と勤務形態でも、現状認識のスコアの10位までの上位の項目による差はない。「11.1 IT 活用」と「11.4 インフラ」の情報技術の活用、「12.1 成長支援」と「12.4 学習支援」の学習支援、「11.3 蔵書構築」の資料の充実の3つのグループのスコアが高い。

「14.3 人事制度」「11.7 人材活用」「13.4 人的資源管理」「13.2 教養」など、人材の活用や育成に関してのスコアが低いのは、大学種別、職務内容、及び、勤務形態でも同様である。一方で、「13.5 熱意と達成感」と「11.2 組織再構築」のスコアは、大学種別、職務内容、及び、勤務形態でも高くなっている。

国立大学で「12.5 リポジトリ」の順位が高いなどの一部の項目はあるものの、全体の傾向と、回答者の属性(大学種別、職務内容、勤務形態)による傾向に差はなく、情報技術の活用、学習支援、及び、資料の充実への評価が高い。これは、SWOT分析の「強み」や「機会」のキーワードとも一致する。

職務内容によって現状認識のスコアを比較する。10位までの上位の項目は、職務内容による差はない。

項目	管理職 (n=225 ~228)	no	庶務会 計 (n=68 ~69)	no	情報処 理 (n=58 ~59)	no	受入 (n=165 ~167)	no	整理 (n=139 ~140)	no	閲覧 (n=288 ~292)	no	参考 (n=83 ~84)	no	複写 (n=49)	no	業務 全般 (n=423 ~427)	no	その 他 (n=92 ~94)	no	合計 (n=159 8~ 1609)	no
11.1 IT活用	0.930	1	0.855	1	0.949	1	0.868	1	0.821	1	0.863	1	0.976	1	0.878	1	0.787	1	0.851	1	0.858	1
12.1 成長支援	0.833	4	0.754	4	0.695	3	0.623	4	0.600	2	0.762	2	0.833	2	0.776	2	0.723	2	0.809	2	0.737	2
12.4 学習支援	0.863	3	0.783	2	0.525	5	0.627	3	0.514	4	0.672	3	0.786	3	0.735	3	0.610	4	0.691	3	0.673	3
11.4 インフラ	0.890	2	0.754	3	0.847	2	0.629	2	0.550	3	0.605	5	0.726	4	0.673	4	0.617	3	0.634	4	0.672	4
11.3 蔵書構築	0.789	6	0.667	6	0.407	7	0.593	5	0.429	7	0.577	6	0.643	7	0.612	8	0.581	5	0.527	7	0.596	5
11.8 環境対応	0.736	8	0.565	8	0.627	4	0.413	8	0.493	5	0.615	4	0.690	5	0.653	5	0.460	7	0.602	5	0.562	6
11.6 連携	0.798	5	0.652	7	0.322	9	0.437	6	0.489	6	0.524	7	0.663	6	0.612	7	0.521	6	0.559	6	0.560	7
13.5 熱意と達成感	0.535	10	0.493	9	0.310	10	0.425	7	0.230	11	0.515	8	0.500	10	0.653	6	0.439	8	0.362	9	0.450	8
12.3 要求理解	0.659	9	0.681	5	0.169	15	0.389	9	0.300	9	0.434	9	0.429	13	0.449	9	0.392	9	0.333	11	0.433	9
11.2 組織再構築	0.743	7	0.406	11	0.271	11	0.293	11	0.157	14	0.402	10	0.512	9	0.449	12	0.214	11	0.355	10	0.363	10
11.5 将来計画	0.447	11	0.464	10	0.424	6	0.293	10	0.229	12	0.398	11	0.464	11	0.347	11	0.160	12	0.226	14	0.312	11
13.1 Communication	0.346	12	0.232	15	0.069	19	0.222	13	0.014	21	0.271	13	0.143	22	0.449	10	0.228	10	0.330	12	0.236	12
12.5 リポジット	0.145	23	0.348	12	0.390	8	0.269	12	0.343	8	0.326	12	0.619	8	0.245	15	0.009	20	0.419	8	0.234	13
14.5 資源確保	0.346	13	0.087	25	0.237	13	0.198	14	0.079	17	0.241	14	0.452	12	0.143	18	0.082	15	0.247	13	0.197	14
12.6 利用調査	0.253	19	0.250	14	0.085	17	0.036	20	0.129	15	0.236	15	0.286	15	0.122	21	0.052	16	0.140	17	0.148	15
14.7 トップ主導	0.233	21	0.203	17	0.271	12	0.072	17	0.245	10	0.179	18	0.217	16	0.143	19	0.002	21	0.194	15	0.140	16
14.2 大学の使命	0.276	17	0.101	24	0.068	20	0.120	15	0.086	16	0.120	22	0.214	17	0.306	13	0.087	14	0.011	24	0.132	17
12.2 要求満足	0.310	16	0.275	13	-0.034	23	0.072	18	0.050	18	0.173	19	0.119	23	0.061	25	0.033	18	0.181	16	0.125	18
12.7 評価向上	0.322	14	0.132	20	0.017	22	-0.006	22	0.050	19	0.128	21	0.202	19	0.122	22	0.094	13	0.097	20	0.124	19
14.8 図書館使命	0.273	18	0.159	18	0.085	18	0.048	19	0.043	20	0.193	17	0.205	18	0.184	17	0.026	19	0.129	18	0.123	20
14.6 経営計画	0.018	26	0.116	23	0.169	16	0.114	16	0.165	13	0.227	16	0.373	14	0.265	14	0.033	17	0.032	23	0.119	21
14.1 トップ経営	0.241	20	0.203	16	0.034	21	-0.012	23	0.014	22	0.058	25	0.155	21	0.122	23	-0.012	22	0.054	21	0.067	22
13.3 Community	0.206	22	0.116	22	0.224	14	0.018	21	-0.058	24	0.062	24	0.036	24	-0.061	28	-0.066	25	0.129	19	0.041	23
14.4 経営連携	-0.009	27	-0.058	27	-0.034	24	-0.078	24	-0.014	23	0.141	20	0.155	20	0.245	16	-0.110	26	0.043	22	0.000	24
13.4 人的資源管理	0.311	15	0.116	21	-0.086	25	-0.120	25	-0.180	25	0.031	26	-0.036	25	0.061	26	-0.201	27	-0.011	25	-0.030	25
13.2 教養	0.053	25	0.159	19	-0.190	26	-0.186	27	-0.187	26	0.003	27	-0.107	26	0.041	27	-0.050	24	-0.032	26	-0.047	26
11.7 人材活用	0.075	24	-0.029	26	-0.288	28	-0.144	26	-0.286	28	0.076	23	-0.286	28	0.143	20	-0.049	23	-0.108	27	-0.057	27
14.3 人事制度	-0.101	28	-0.159	28	-0.237	27	-0.217	28	-0.214	27	-0.031	28	-0.107	27	0.082	24	-0.228	28	-0.174	28	-0.150	28

勤務形態によって現状認識のスコアを比較する。10位までの上位の項目は、勤務形態による差はない。

項目	専任 (n=884 ~889)	no 専任	非常勤・ 嘱託 (n=235 ~239)	no 非常勤・ 嘱託	派遣 (n=128 ~129)	no 派遣	委託 (n=285 ~288)	n0 委託	その他 (臨時) (n=52 ~53)	no そ の 他 (臨時)	合計 (n=1588 ~1598)	no 合 計
11.1 IT活用	0.881	1	0.774	1	0.837	1	0.885	1	0.717	2	0.857	1
12.1 成長支援	0.721	3	0.735	2	0.736	2	0.788	2	0.774	1	0.738	2
12.4 学習支援	0.702	4	0.664	3	0.648	3	0.608	3	0.642	3	0.673	3
11.4 インフラ	0.784	2	0.570	6	0.527	6	0.495	6	0.547	6	0.671	4
11.3 蔵書構築	0.643	5	0.613	4	0.535	5	0.481	8	0.509	7	0.596	5
11.8 環境対応	0.593	6	0.489	7	0.411	9	0.585	4	0.604	4	0.562	6
11.6 連携	0.582	7	0.576	5	0.539	4	0.500	5	0.547	5	0.562	7
13.5 熱意と達成感	0.444	8	0.423	8	0.426	8	0.493	7	0.453	9	0.448	8
12.3 要求理解	0.434	9	0.378	9	0.523	7	0.436	9	0.434	10	0.433	9
11.2 組織再構築	0.421	10	0.295	10	0.171	12	0.317	10	0.415	11	0.363	10
11.5 将来計画	0.370	11	0.274	11	0.101	17	0.224	14	0.472	8	0.311	11
13.1 Communication	0.209	14	0.201	13	0.333	10	0.297	11	0.245	17	0.235	12
12.5 リポジトリ	0.243	13	0.229	12	0.116	14	0.245	13	0.283	13	0.232	13
14.5 資源確保	0.245	12	0.055	21	0.039	22	0.210	15	0.340	12	0.197	14
12.6 利用調査	0.085	23	0.123	16	0.295	11	0.287	12	0.245	18	0.149	15
14.7 トップ主導	0.175	15	0.072	19	0.070	19	0.139	20	0.057	25	0.141	16
14.2 大学の使命	0.163	16	0.165	14	0.047	21	0.063	23	0.132	22	0.135	17
12.2 要求満足	0.119	18	0.034	23	0.147	13	0.178	16	0.264	15	0.124	18
12.7 評価向上	0.117	19	0.097	17	0.109	16	0.157	18	0.189	19	0.123	19
14.8 図書館使命	0.149	17	0.072	18	0.101	18	0.087	22	0.170	20	0.123	20
14.6 経営計画	0.099	20	0.132	15	0.116	15	0.143	19	0.250	16	0.118	21
14.1 トップ経営	0.094	21	0.051	22	-0.008	24	0.038	25	0.000	26	0.066	22
13.3 Community	0.088	22	-0.004	24	-0.039	26	-0.091	28	0.283	14	0.038	23
14.4 経営連携	-0.071	26	0.059	20	0.062	20	0.125	21	0.094	23	0.000	24
13.4 人的資源管理	-0.032	24	-0.110	27	-0.093	27	0.042	24	0.075	24	-0.031	25
13.2 教養	-0.071	25	-0.059	26	-0.008	25	0.004	26	0.000	27	-0.048	26
11.7 人材活用	-0.163	27	-0.034	25	0.039	23	0.171	17	0.132	21	-0.058	27
14.3 人事制度	-0.197	28	-0.169	28	-0.171	28	0.000	27	-0.057	28	-0.151	28

4-2. 必要とされる知識：先行調査との比較

2004年調査⁴⁾の全体の順位を算出するために、館長(382名)と管理職(395名)の「全員に必要」のパーセンテージ、中堅(404名)と若手(384名)の「ぜひ必要」のパーセンテージを平均して、数値の大きな順に順位付けをして、今回の調査と比較した。これまでの2調査と、順位で5位以上から10位以上の変動のある特徴的な項目の順位のセルを二重枠でくくった。

1989年調査¹⁾の項目だったニューメディア(16位)、研究者の情報生産・利用(29位)、高度な専門主題知識(37位)、ビブリオメトリクス(計量書誌学)(39位)の4項目は、2004年では対応する項目が複数に分かれている関係で分析からは除外した。

項目(1989)	区分	項目(2004,2011)	2011	2004	1989
オンライン情報検索	サービス	情報検索技術	1	1	14
参考調査サービス	サービス	レファレンス・サービス	2	2	6
図書館・文献利用教育	サービス	利用教育・情報リテラシー	3	3	12
-	資料・メディア	電子ジャーナル	4	10	-
-	その他	会話・接遇	5	12	-
-	サービス	利用者のプライバシー	6	5	-
-	資料・メディア	ネットワーク情報資源	7	13	-
著作権	サービス	知的財産権・著作権	8	8	12
基本的な二次資料	資料・メディア	二次資料・参考図書と検索サービス	9	7	1
閲覧・貸出サービス	サービス	閲覧・貸出サービス	10	6	2
資料目録法	組織化	資料目録法・Online 目録 System	11	4	4
図書館ネットワーク・協力	サービス	図書館ネットワーク・図書館協力	12	11	11
図書館の機械化	その他	図書館業務システムの運用, 管理	13	15	8
-	サービス	カスタマケア(問合せ・相談対応)	14	27	-
逐次刊行物	資料・メディア	逐次刊行物	15	14	5
資料選択・収集	資料・メディア	資料選択	16	17	10
データベース・マネジメント	その他	データベース等の運用, 管理	17	21	30
広報	マネジメント	広報活動	18		22
-	資料・メディア	分野別専門資料/情報源		25	-
分類, 件名法	組織化	分類法・件名法	20	9	3
-	その他	利用教育, 職員研修での教授法	21	37	-
図書館関係法規・基準	マネジメント	図書館関係法規・基準	22	16	15
外国語(英語)	その他	外国語: 英語	23	18	6
出版流通	資料・メディア	出版流通/学術情報流通	24	20	
-	その他	文書・企画書の作成	25	24	-
基礎的な主題知識	その他	主題専門知識	26	30	9
資料保存・保護・製本	資料・メディア	資料保存・保護・製本	27	28	18
研究調査法・統計学	その他	研究調査法	28	48	35
-	マネジメント	予算管理・会計	29	39	-
障害者サービス	サービス	障害者サービス	30	22	25
コミュニケーション技術(話し方, 書き方)	その他	プレゼンテーション技術	31	34	17
-	その他	ネットワークの運用, 管理	32	32	-
図書館建築・設備・備品	マネジメント	図書館建築・設備・備品	33	38	30
-	資料・メディア	コレクション構築と評価	34	35	-
-	組織化	メタデータ	35	31	-
二次資料作成	組織化	二次資料/データベース作成	36	26	
-	組織化	索引法, 抄録法	37	23	-
-	サービス	ドキュメントデリバリーサービス	38	29	-
知的自由・検閲	その他	知的自由・検閲	39	33	22
官庁刊行物・特許資料	資料・メディア	官庁刊行物・特許資料/情報	40	43	28
非図書資料及び利用機器	資料・メディア	その他の非図書資料, 利用機器	41	42	21
-	その他	書誌学	42	36	-
-	その他	ウェブコンテンツの構築, 管理	43	41	-
経営理論・手法	マネジメント	経営理論・手法	44	46	37
大学行財政	マネジメント	大学行財政	45	47	36
高等教育事情	その他	高等教育事情	46	44	33
-	資料・メディア	古典籍(西洋古典を含む)	47	51	-
外国大学図書館事情	その他	外国大学図書館事情	48	49	30
外国語(英語以外)	その他	外国語: 英語以外	49	50	34
図書館史	その他	図書館史	50	40	22
図書・印刷の歴史	資料・メディア	メディアの歴史	51	45	26
コンピュータ(機器, プログラミング)	その他	プログラミング	52	52	27

技術・知識の区分では、順位が10位までの上位にランクしているのは、『サービス』と『資料・メディア』である。『マネジメント』と『組織化』は、10位以内に入っていない。『サービス』の「情報検索技術」「レファレンス・サービス」「利用教育, 情報リテラシー」の3つが1位から3

位を占めている。2004年調査も同じ順位である。1989年調査の14位、6位、12位から順位が上がっている。

『資料・メディア』の「電子ジャーナル」「ネットワーク情報資源」は、4位と7位である。2004年調査の10位、13位から順位が上がっている。

『その他』の「会話・接遇」が5位となっている。2004年調査の12位から順位が上がっている。

『サービス』の「利用者のプライバシー」は6位である。2004年調査では5位と順位に大きな変動はない。

4-3. 現状認識, SWOT, 知識のまとめ

3つの調査の枠組である現状認識, SWOT, 及び, 知識について, 概略を以下の通りまとめた。現在の大学図書館における課題への対策を明らかにするには, 調査データの更なる分析と聞き取り調査データの分析, 更に, 新たな調査の枠組を考える必要がある。

<p>現状認識の分析</p> <p>情報技術の活用, 学習支援, 及び, 資料の充実への高い評価</p> <p>人材活用や人材育成への低い評価</p>
<p>SWOT 分析</p> <p>サービス, 資料に「強み」</p> <p>職員, 運営, 施設「弱み」</p> <p>サービス, 利用者, 運営に「機会」</p> <p>職員, 運営に「脅威」</p>
<p>必要な知識</p> <p>サービス, 資料・メディアは必要性が大きい</p> <p>マネジメント, 組織化は必要性がやや劣る</p>

最後に, 自由記述から概略のまとめに関連する部分として, 人材育成に関する記述を紹介する。人材育成に関して, 大学図書館員一人ひとりの考え方や認識は様々である。

★社会人としての基礎知識の不足

「今の職員には, 社会的要請で情報教育は必要ですが, 基本的な知識をまず身に付けてから業務について欲しい。(他者への対応や文書作成の常識等々)」[No. 1238]

★広範囲な知識の必要性和, 大学人としての基礎知識の不足

「図書館職員の興味は「内向き」か, 海外事例についても「図書館」のみに関心が行きがちである。大学内のコミュニケーションや他部局業務への関心, 大学事務の基礎的知識, 教務事務, FD・SD について, 大学経営, 高等教育, 認知科学や学習理論, について関心を高めるべき。」[No. 0402]

★業務に必要な専門性

「大学図書館員に必要な知識としてほぼすべての項目にチェックがついてしまったが, すべての人員が全ての知識を得る必要はない。配置ごとに必要な知識が異なると思うので各自必要な知識を選んで勉強していく必要がある。ただ, 現在の状況として, 図書館員の専門性を高めるよ

うな方向ではなく、すべてにおいて広く浅くというようなゼネラリストの方が求められているように思える。しかしながら、書誌をとるなどの一部の分野にはいまだに高い専門性が求められている状況にある。この部分をどうにかしないと、この先の図書館の未来に暗雲が立ち込めているように思える。」 [No. 0084]

「大規模図書館では、業務が細分化しているため、挙げられた知識の一部の深い知識が必要と思うが、小規模になればなるほど、どの分野の知識についても全般的に必要なと思われる」など、必要な知識は、大学の規模によって、求められる深さや範囲が異なる。図書館の方向性を明確にすることと、組織的な職員教育への取り組みが求められる。 [No. 0751]

★知識が必要な根拠

「利用者の学年ごとのニーズを把握したうえでのサービスを行うためには、データベースや二次資料に関してどのスタッフも同等の知識を持っていなければならない。また、蔵書構築の面では教員と連携をとる必要がある。加えて、出版・流通の知識や動向に敏感でなければならない。海外の図書館事情をチェックし、勤務する図書館との関係やサービス内容を熟考することは、常に最新の情報やサービスを提供する上では欠かせない。スタッフのスキル向上という意味では、自身は他スタッフに新しいデータベースの使い方などの講習を行っているが、外部の研修や研究発表に参加できればなお良いと思う。」 [No. 0069]

★知識が必要な根拠：マネジメントに関する

「以前は大学の行財政とか経営理論について図書館員はそう必要ないと思っていたのですが、昨年そうした90年代以降の大学改革について研修で学ぶ機会があって、その全体を理解した上で、改めて大学図書館のミッションとか大学図書館のディプロマポリシーについて考えることになりました。やはりそうしたことも是非必要な知識と思います。」 [No. 0590 ; (役職名)課長補佐, (所属)図書課参考業務係]

★持続可能性への懸念

「大学図書館では業務委託化がすすんでおり、本学も整理・閲覧業務は完全委託している。専任職員として、図書館で長期間経験・知識を蓄積し、専門的能力を高めていくことは意義があると思うが、大学職員として採用されているため他部署への異動も避けられない。そのため、専任職員であることの必要性（この業務を職員が行い、この業務をアルバイトに委託する意味はあるのか？など）を考えることがある。」 [No. 0218]

「大学図書館も委託業務化が進み、専門的な知識、大学職員の一部であるという意義、モチベーションが持ちにくい状況になっていると思います。」 [No. 0704]

★知識が不足していることの指摘：知識における専任職員と非専任職員の逆転

「委託という短期スパンの非正規職員が多くなり、知識の蓄積が不十分であることを強く感じます。正職員には委託と同等以上の責任感と知識をもって職責を全うしてもらいたいです。当館では残念ながらそのような意識はないようです。」 [No. 0601]

★知識が不要との考えもある

「事実としてその知識がなくてもやって行けている場合が多いのが現状だとは思う」 [No. 0301]

「業務をどこまで行なうのが明確になっており、マニュアルがあれば、予備知識としての専門知識等はあまり必要がないように思います。」 [No. 1078 委託(勤務形態)/利用サービス(所属)]

★知識を習得する組織的な仕組みを再構築することの必要性

「大学図書館と大学事務局側とのコミュニケーションが上手くとれていないと、図書館業務への認識が低くなり、人件費が削られやすい。全面委託への方針転換も望まれるなか、図書館員としての知識や技術を構築していくことが難しくなりつつあると、大学図書館に勤務して感じる。」 [No. 0972]

「図書館員としての知識習得は、個人の裁量に任されています。研修などの機会が少ないので苦慮しています。」 [No. 1061]

★SWOT分析の「強み」に関連して、自由回答から大規模館と察せられるが、資料の充実が、今後の大学図書館における大きな「強み」として期待されている。

「専門書が多い。電子的資源が多く利用可能」と、 [No. 0751]

謝辞

本研究を進めるにあたり、Web調査にご協力・ご回答いただいた国公立大学図書館員の皆様と、Web調査の配布・許可をいただいた国公立大学図書館に心より感謝申し上げます。

参考文献

- 1) 三浦逸雄 菊池しづ子 森智彦 堀川照代「大学図書館員の知識ベースと図書館情報学教育 (I)-(II)」『日本図書館情報学会誌』Vol. 37, No. 2, No. 3, 1991, p. 49-63, 103-116.
- 2) 『大学改革と大学図書館の学習・教育支援機能：アンケート調査結果』三浦逸雄研究代表者, 2002. 3, 47p.
- 3) 『大学改革と大学図書館の学習・教育支援機能：日米実態調査の結果と分析』三浦逸雄研究代表, 東京大学大学院教育学研究科図書館情報学研究室, 2005. 3, 250p.
- 4) 『情報専門職の養成に向けた図書館情報学教育体制の再構築に関する総合的研究：大学, 教育, 情報環境の大きな変化に対し, 情報専門職の養成に向けた図書館情報学教育体制の再構築』上田修一研究代表, 2006. 3, 456p.
- 5) 筑波大学編『今後の「大学像」の在り方に関する調査研究(図書館)報告書：教育と情報の基盤としての図書館』筑波大学, 2007. 3, 157p.
- 6) 『電子情報環境下における大学図書館機能の再検討』土屋俊研究代表, 2007. 3, 210p.
- 7) 『大学図書館の整備について(審議のまとめ)－変革する大学にあって求められる大学図書館像－』科学技術・学術審議会学術分科会研究環境基盤部会学術情報基盤作業部会, 2010. 12.
- 8) 鈴木正紀「進化を続けるライブラリアンになるために」『情報の科学と技術』Vol. 61, No. 4, 2011, p. 146-153.
- 9) 長谷川豊祐「大学図書館における館員数の変化と課題」『日本図書館情報学会春季研究集会発表要綱』2008年, p. 119-122.
- 10) 長谷川豊祐「大学図書館の館員数の変化における背景と課題」『日本図書館情報学会研究大会発表要綱』2011, 第59回, p. 57-60.
- 11) 長谷川豊祐「大学図書館における館員数の現状と課題」『三田図書館・情報学会研究大会発表論文集』2007年度, p. 5-8.
- 12) 長谷川豊祐「日本の大学図書館業務電算化における課題構造の解明：フォーカス・グループ

- プ・インタビューによる調査」『Library and Information Science』No. 62, 2009, p. 1-27.
- 13) 長谷川豊祐「情報検索技術の発展が日本の大学図書館に及ぼした影響」『三田図書館・情報学会研究大会発表論文集』2010年度, p. 25-28.
 - 14) 長谷川豊祐「大学図書館における文献複写依頼件数の変化に関わる要因の整理」『日本図書館情報学会研究大会発表要綱』2010, 第58回, p. 13-16.
 - 15) 長谷川豊祐「わが国における図書館サービスの推移：1970年-2006年」『日本図書館情報学会研究大会発表要綱』2009, 第57回, p. 13-16.
 - 16) 長谷川豊祐「大学図書館における資料費の変化と課題」『日本図書館情報学会研究大会発表要綱』208, 第56回, p. 1-4.
 - 17) 長谷川豊祐「変化への適応：大学図書館における業務分析と業務管理手法」『情報の科学と技術』61(8), 2011, p. 311-316.
 - 18) 長谷川豊祐「大学図書館の現状分析のための枠組みの試案」『日本図書館情報学会春季研究集会発表要綱』2011年度, p. 99-102.
 - 19) 前田朗「キーワード自動抽出システム「言選Web」」『漢字文献情報処理研究』. No. 6, 2005, p. 124-133. <<http://www.jaet.gr.jp/archives/journal/jj06-1.pdf>> 「言選Web」サイト<<http://gensen.dl.itc.u-tokyo.ac.jp/gensenweb.html>>

資料編

資料 1	研究計画概要(私立大学図書館協会研究助成申込書)	25
資料 2	審査結果(通知)	27
資料 3	意識調査への協力依頼状, 質問項目一覧	28
資料 4	Web 調査画面, 調査結果画面(部分)	33
資料 5	ご協力のお礼, 単純集計結果	38
資料 6	予備調査による調査項目決定の詳細	43

テーマ選択の理由ならびに研究計画概要

研究の背景

大学図書館は、設置母体である大学と共に、戦後の高度成長のもとで拡大を継続してきた。その過程で、施設、蔵書、および人員の規模も継続的に拡大してきた。また、情報検索技術の発達と大学図書館業務の電算化は図書館サービスの高度化を実現した。しかし、情報利用を激変させたインターネットと、少子化による経営悪化にあえぐ高等教育サービスの狭間で、大学図書館の存在意義が揺らいでいる。

蓄積された蔵書、その貸出・閲覧、学総目と ILL など、情報流通において果たしてきた図書館の役割の再評価や課題構造の解明が必要となっている。

研究の目的

わが国における大学図書館の現在までの発展について、情報検索の発達や図書館業務の電算化など、大学図書館の運営や機能に強い影響を与えた複数の観点から、大学図書館の発展過程を明らかにする。さらに、発展過程をもとに現代の大学図書館に存在する課題の構造も解明する。それによって、今後の大学図書館による高等教育サービスへの貢献と、インターネットが再構築しつつある情報化社会のより良い発展に向けた貢献が可能になる。

本研究では課題の一つの局面として、大学図書館員への悉皆調査により、大学図書館の現状と、現状に至った発展過程を把握し、大学図書館における課題構造を解明するための基礎的な調査とする。最終的には、これまでの成果と統合し、課題構造を解明したい。

これまでの成果

- 1) 日本の大学図書館業務電算化における課題構造の解明. 三田図書館・情報学会研究大会発表論文集. 2006年度, p. 17-20. (2006年11月11日 慶應義塾大学三田キャンパス)
- 2) 日本の大学図書館業務電算化における課題構造の解明: フォーカス・グループ・インタビューによる調査. Library and Information Science. 2009, no. 62, p. 1-27.
- 3) 大学図書館における館員数の現状と課題. 三田図書館・情報学会研究大会発表論文集. 2007年度, p. 5-8. (2007年11月10日 慶應義塾大学三田キャンパス)
- 4) 大学図書館における館員数の変化と課題. 日本図書館情報学会春季研究集会発表要綱. 2008年, p. 119-122. (2008年3月29日 東京大学本郷キャンパス)
- 5) 大学図書館における資料費の変化と課題. 日本図書館情報学会研究大会発表要綱. 208, 第56回, p. 1-4. (2008年11月15-16日 帝塚山大学)
- 6) わが国における図書館サービスの推移: 1970年-2006年. 日本図書館情報学会研究大会発表要綱. 2009, 第57回, p. 13-16. (2009年10月31日 明治大学)
- 7) 情報検索技術の発達が日本の大学図書館に及ぼした影響. 三田図書館・情報学会研究大会発表論文集. 2010年度, p. 25-28. 2010年9月25日 (慶應義塾大学三田キャンパス)
- 8) 大学図書館における文献複写依頼件数の変化に関わる要因の整理. 日本図書館情報学会研究大会発表要綱. 2010, 第58回, p. 13-16. 2010年10月9日-10日 (藤女子大学)

調査方法

国内の国公立大学図書館の全図書館員を調査対象として、『大学図書館員における図書館の現状に関する意識調査(仮題)』に関する質問紙調査(Web調査)を実施する。「有用な」回答をしてくれた館員には、次の段階として聞き取り調査を実施する。

	国立大学	公立大学	私立大学	計
図書館数	293	128	965	1,386
専従職員数	1,713	306	3,369	5,388
兼務職員数	239	117	850	1,206
非常勤・臨時	1,563	420	2,421	4,404
派遣等	130	158	2,498	2,786
計	3,645	1,001	9,138	13,784

(大学図書館と図書館員の数 『日本の図書館 2009』より)

大学図書館員への事前の SWOT 分析を用いたグループインタビューを実施し、大学図書館員による現状認識の項目を収集し、その結果をもとに調査項目を決定する。

外部要因	機会(Opportunity) 大学における図書館への期待の高まり 活用できる多様化した情報源の出現 情報検索の一般化	脅威(Threat) 対応の限界を越える利用要求の多様化 大学の経営難による経費と人員の削減 活字離れと図書館への認識の弱さ
内部要因	強み(Strength) 蓄積した蔵書 組織化された業務と訓練された職員の存在 整備された ICT 環境	弱み(Weakness) 図書館機能に対する評価のゆらぎ サービス成果の不十分な可視化 図書館員の能力のバラつき

(SWOT 分析で収集される項目の例)

今後の予定

- 2010年12月：事前調査(質問項目決定のためのグループインタビュー)
- 2011年1月：質問項目作成，調査方法設定
- 2011年5月：調査開始
- 2011年7月：回答完了
- 2011年9月：調査結果集計・分析
- 2012年1月：調査報告書作成

申請書 (略)

所要経費の詳細 (略)

推薦状 (略)

私大図協発第10-90号
2011年3月10日

鶴見大学図書館
長谷川豊祐 殿

私立大学図書館協会会長校
関西大学図書館
館長 北川 勝彦
研究助成委員会
委員長 小泉 徹
(立教大学図書館)



2011年度研究助成の審査結果について（通知）

拝啓 時下ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。
平素は、私立大学図書館協会の活動にご協力をご賜り厚く御礼申し上げます。
さて、この度は、私立大学図書館協会研究助成「個人研究」にお申し込みいただき、誠にありがとうございました。
貴殿からのお申し込みについて、2011年1月27日（木）開催の2010年度第2回研究助成委員会にて審査し、同年3月4日（金）開催の2010年度第2回東西合同役員会にて協議した結果を下記のとおりお知らせします。

敬 具

記

1. 研究助成の採否
採択
2. 研究助成金
600,000円
3. 採択の理由
本研究は今日の大学図書館の来し方行く末を明らかにしようとするもので、他の加盟館や図書館員にとっても関心があり、参考となるものである。調査の回収率を上げることならびにデータ処理を工夫することで成果が期待できる。
SWOT分析を駆使することにより、これまでの大学図書館員の意識形成過程が明らかにされ、現在の意識状況の分析とともに、これからの大学図書館の方向性が示唆されることを望む。
4. 同封の研究助成金振込依頼書に必要事項をご記入のうえ、私立大学図書館協会会長校事務局にお送りください。
私立大学図書館協会会長校事務局 関西大学図書館 担当者 金
〒564-8680 大阪府吹田市山手町 3-3-35
TEL: 06-6368-1260 FAX: 06-6368-1261 Mail: skyoukai@ml.kandai.jp
5. 2012年3月12日（月）までに、支出報告、証憑類をご提出ください。支出報告については、別途フォーマットをお渡しいたします。

以上

2011 年 11 月 22 日

大学図書館 各位

大学図書館職員の意識調査へのご協力をお願い

時下 ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

この度、標記の調査への協力についてお願いしたく、ご連絡を差し上げます。私は、大学図書館の発展過程と、現代の大学図書館に内在する課題の構造を解明するための研究を継続しております。

今回の調査は、大学図書館における課題を解明する調査の一環として、個々人の大学図書館職員を対象に、大学図書館の運営やサービスへの現状認識に関する意識調査です。本調査の成果は、今後の高等教育サービスにおける大学図書館の貢献についての検討や立案を行なうための基礎データとして活用が可能です。

つきましては、業務ご多忙のこととは存じますが、貴館職員の皆様へ、同封の「調査協力をお願い」の配布についてご高配賜りたくお願い申し上げます。

なお、本調査は私立大学図書館協会研究助成を受けて実施しております。

回答期限は、2011 年 12 月 31 日とさせていただきますと思います。

よろしくお願いたします。

長谷川豊祐（鶴見大学図書館事務長）

TEL: 045-580-8266（ダイヤルイン）

E-mail: hasegawa-t@tsurumi-u.ac.jp

「図書館員のためのインターネット」運営管理人

<http://members3.jcom.home.ne.jp/toyohiroh/>

2011年11月22日

大学図書館職員の皆様

大学図書館職員の意識調査(Web調査)へのご協力をお願い

時下 ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

この度、標記の調査への協力についてお願いいたく、ご連絡を差し上げます。私は、大学図書館の発展過程と、現代の大学図書館に内在する課題の構造を解明するための研究を継続しております。

今回の調査は、大学図書館における課題を解明する調査の一環として、個々人の大学図書館職員を対象に、大学図書館の運営やサービスへの現状認識に関する意識調査です。本調査の成果は、今後の高等教育サービスにおける大学図書館の貢献についての検討や立案を行なうための基礎データとして活用が可能です。

つきましては、業務ご多忙のこととは存じますが、意識調査へのご協力をお願い申し上げます。

なお、本調査は私立大学図書館協会研究助成を受けて実施しております。

回答期限は、2011年12月31日とさせていただきます。
よろしく願いいたします。

Web調査への回答手順について

(1)回答説明サイトへは、インターネットでの検索か、URLの直接入力をお願いします。

・

・「図書館員のためのインターネット」 <http://members3.jcom.home.ne.jp/toyohiroh/>

(2)「大学図書館職員の意識調査」からご回答ください。パスワードは「*****」です。

(3)設問が多数なため、回答ページ最下部の により、途中までの回答状況を、パスワードの設定で保持し、**後で再回答できます。**

参考資料：

- ・ **調査項目** (Webでの回答の前に、ご参考になさってください)
- ・ 研究の背景、目的、調査方法、これまでの成果

長谷川豊祐 (鶴見大学図書館事務長)
TEL: 045-580-8266 (ダイヤルイン)
E-mail: hasegawa-t@tsurumi-u.ac.jp
「図書館員のためのインターネット」運営管理人
<http://members3.jcom.home.ne.jp/toyohiroh/>

調査項目：大学図書館員の現状認識に関する意識調査(Web 調査)
 調査対象：館長から可能ならば、派遣、委託まで。臨時(パート、アルバイト)は除く。

回答者の属性についてお答えください。		
No	設問	選択肢
01	大学種別	1:国立 2:公立 3:私立 4:その他
02	職務内容	1:管理職(館長・分館・副館長, 課長補佐, 事務長補佐相当以上) 2:庶務・会計 3:情報処理 4:受入 5:整理 6:閲覧 7:参考 8:複写 9:業務全般 10:その他
03	資格	1:情報処理技術者 2:情報検索能力試験(データベース検索技術者認定試験を含む) 3:司書 4:司書補 5:国家公務員試験, 国立大学法人等職員採用試験(II種試験(図書館学), 上級・中級試験(図書館学), 国立学校図書専門職員採用試験を含む) 6:その他 7:なし
04	性別	1:男 2:女
05	最終学歴	1:高校 2:短大 3:高専 4:大学 5:大学院 6:その他
06	勤務形態	1:専任 2:非常勤・嘱託 3:派遣 4:委託 5:その他 ※臨時(パート, アルバイト)は除く
07	年齢	1:19歳以下 2:20~24歳 3:25~29歳 4:30~34歳 5:35~39歳 6:40~44歳 7:45~49歳 8:50~54歳 9:55~59歳 10:60歳以上
08	通算図書館勤務年数	1:1年未満 2:1~5年 3:6~10年 4:11~15年 5:16~20年 6:21~25年 7:26~30年 8:31~35年 9:36~40年 10:41年以上
09	現在の役職名	記述:
10	所属部・課・係名	記述

勤務先の大学図書館の現状について、どのようにお考えですか？ 選択肢 1:Yes 2:No 3:不明		
No	設問	選択肢
11	勤務先の図書館について、どのようにお考えですか？:図書館の内部業務について	
	データベースや電子ジャーナルなどの外部資源や, IT 技術を活用している	1: 2: 3:
	組織の活性化, 業務と組織の再構築に務めている	1: 2: 3:
	蔵書の重要性を認識し, サービスや予算を考慮した蔵書構築を行っている	1: 2: 3:
	業務電算化システム, ネットワーク, 施設・設備などのインフラ整備を行なっている	1: 2: 3:
	将来計画の策定と実施を行なっている	1: 2: 3:
	図書館運営やサービス提供において, 学生や教員との連携を行なっている	1: 2: 3:
	館内での業務分担や人員配置は, 人材活用の自由度が高く, それを活かしている	1: 2: 3:
	情報化や学習環境の変化への対応を行っている	1: 2: 3:
12	勤務先の図書館について、どのようにお考えですか？:顧客サービスについて	
	学生の成長を支援している	1: 2: 3:
	学生と研究者の利用要求を満たして, その満足度は高い	1: 2: 3:
	利用者の要求を理解している	1: 2: 3:
	学習支援を重視している	1: 2: 3:
	機関リポジトリの実施に務めている	1: 2: 3:
	利用者研究や利用実態調査の実施に努めている	1: 2: 3:
	図書館の提供しているサービスに関して, 学内での評価が向上している	1: 2: 3:
13	勤務先の図書館について、どのようにお考えですか？:職員, 人材育成, 研修について	
	館員は, 利用者, 他部署, 同僚との十分なコミュニケーション能力を備えている	1: 2: 3:
	サービス提供や教員連携を円滑に実現できる教養を, 館員全体として備えている	1: 2: 3:
	図書館同士や業界関連のコミュニティー活動は活発である	1: 2: 3:
	図書館では人的資源管理(モチベーション維持, 職員有効活用)を行なっている	1: 2: 3:
	館員は, 熱意をもって業務に取り組み, 業務遂行に達成感を見いだしている	1: 2: 3:
14	勤務先の図書館について、どのようにお考えですか？:経営管理について	
	理事会, 学長, 事務局長などの大学のトップ層にはマネジメント能力がある	1: 2: 3:
	大学のミッションが確立し, 教職員はミッションを理解して業務を遂行している	1: 2: 3:
	大学では, 有効な人事制度の確立や人材活用を行なっている	1: 2: 3:

	図書館運営と大学経営との連携がある	1: 2: 3:
	図書館経営資源(人員, 予算, 施設・設備)を確保する努力がなされている	1: 2: 3:
	図書館経営計画を策定し, 実施している	1: 2: 3:
	館長や事務組織上のトップ主導の経営がなされている	1: 2: 3:
	図書館のミッションが確立されている	1: 2: 3:
	勤務先の大学図書館において, 内部環境としての「強み」と「弱み」について, 外部環境としての「機会」と「脅威」について, どのようにお考えですか? 理髪店を具体例とした回答例 強み: 地域の顧客が多い, リピーター率が高い 弱み: 新規の顧客が少ない, スタッフが育たない 機会: 高齢者人口の増加, 徒歩圏内に住宅街 脅威: 若年者人口の減少, 地域に競合店が多い	
15	顧客や設置母体から評価され, 自信を持って提供できる「強み」(人材, 資料, 技術, 環境)を, 具体的にお書きください。	記述
16	業務やサービスを展開する際に, 図書館の「弱み」となっている事柄を, 具体的にお書きください。	記述
17	設置母体の大学や社会的状況で, 業務やサービスを展開する際の「機会」や「チャンス」となる事柄を, 具体的にお書きください。	記述
18	設置母体の大学や社会の状況で, 業務やサービスを展開する際の「障害」や「脅威」となる事柄を, 具体的にお書きください。	記述

大学図書館員に必要な知識について, どのようにお考えですか? 大学図書館員に必要な程度にチェックして下さい。 選択肢 1: ぜひ必要 2: どちらかといえば必要 3: あまり必要ない 4: 不要					
19	A. 資料・メディア		22	D. マネジメント	
A01	出版流通/学術情報流通	1: 2: 3: 4	D01	経営理論・手法	1: 2: 3: 4
A02	ネットワーク情報資源	1: 2: 3: 4	D02	大学行財政	1: 2: 3: 4
A03	逐次刊行物	1: 2: 3: 4	D03	予算管理・会計	1: 2: 3: 4
A04	電子ジャーナル	1: 2: 3: 4	D04	広報活動	1: 2: 3: 4
A05	分野別専門資料/情報源	1: 2: 3: 4	D05	図書館関係法規・基準	1: 2: 3: 4
A06	古典籍(西洋古典を含む)	1: 2: 3: 4	D06	図書館建築・設備・備品	1: 2: 3: 4
A07	官庁刊行物・特許資料/情報	1: 2: 3: 4	23	E. その他	
A08	その他の非図書資料, 利用機器	1: 2: 3: 4	E01	図書館業務システムの運用, 管理	1: 2: 3: 4
A09	二次資料・参考図書と検索サービス	1: 2: 3: 4	E02	データベース等の運用, 管理	1: 2: 3: 4
A10	資料選択	1: 2: 3: 4	E03	ネットワークの運用, 管理	1: 2: 3: 4
A11	コレクション構築と評価	1: 2: 3: 4	E04	プログラミング	1: 2: 3: 4
A12	資料保存・保護・製本	1: 2: 3: 4	E05	ウェブコンテンツの構築, 管理	1: 2: 3: 4
A13	メディアの歴史	1: 2: 3: 4	E06	主題専門知識	1: 2: 3: 4
20	B. 組織化		E07	外国語: 英語	1: 2: 3: 4
B01	資料目録法・Online 目録 System	1: 2: 3: 4	E08	外国語: 英語以外	1: 2: 3: 4
B02	メタデータ	1: 2: 3: 4	E09	プレゼンテーション技術	1: 2: 3: 4
B03	分類法・件名法	1: 2: 3: 4	E10	文書・企画書の作成	1: 2: 3: 4
B04	索引法, 抄録法	1: 2: 3: 4	E11	会話・接遇	1: 2: 3: 4
B05	二次資料/データベース作成	1: 2: 3: 4	E12	研究調査法	1: 2: 3: 4
21	C. サービス		E13	利用教育, 職員研修での教授法	1: 2: 3: 4
C01	レファレンス・サービス	1: 2: 3: 4	E14	知的自由・検閲	1: 2: 3: 4
C02	情報検索技術	1: 2: 3: 4	E15	外国大学図書館事情	1: 2: 3: 4
C03	利用教育, 情報リテラシー	1: 2: 3: 4	E16	高等教育事情	1: 2: 3: 4
C04	閲覧・貸出サービス	1: 2: 3: 4	E17	図書館史	1: 2: 3: 4
C05	ドキュメントデリバリーサービス	1: 2: 3: 4	E18	書誌学	1: 2: 3: 4
C06	知的財産権・著作権	1: 2: 3: 4			
C07	図書館ネットワーク・図書館協力	1: 2: 3: 4			
C08	障害者サービス	1: 2: 3: 4			
C09	利用者のプライバシー	1: 2: 3: 4			
C10	カスタマケア(問合せ・相談対応)	1: 2: 3: 4			

研究の背景, 目的, 調査方法, これまでの成果

研究の背景

大学図書館は、設置母体である大学と共に、戦後の高度成長のもとで拡大を継続してきた。その過程で、施設、蔵書、および人員の規模も継続的に拡大してきた。また、情報検索技術の発達と大学図書館業務の電算化は図書館サービスの高度化を実現した。しかし、情報利用を激変させたインターネットと、少子化による経営悪化にあえぐ高等教育サービスの狭間で、大学図書館の存在意義が揺らいでいる。

蓄積された蔵書、その貸出・閲覧、学総目とILLなど、情報流通において果たしてきた図書館の役割の再評価や課題構造の解明が必要となっている。

研究の目的

わが国における大学図書館の現在までの発展について、情報検索の発達や図書館業務の電算化など、大学図書館の運営や機能に強い影響を与えた複数の観点から、大学図書館の発展過程を明らかにする。さらに、発展過程のもとに現代の大学図書館に存在する課題の構造も解明する。それによって、今後の大学図書館による高等教育サービスへの貢献と、インターネットが再構築しつつある情報化社会のより良い発展に向けた貢献が可能になる。

本研究では課題の一つの局面として、大学図書館員への悉皆調査により、大学図書館の現状と、現状に至った発展過程を把握し、大学図書館における課題構造を解明するための基礎的な調査とする。最終的には、これまでの成果と統合し、課題構造を解明したい。

調査方法

国内の国公私立大学図書館の全図書館職員を調査対象として「大学図書館職員の意識調査」に関する質問紙調査(Web 調査)を実施する。

これまでの成果

- 9) 日本の大学図書館業務電算化における課題構造の解明:フォーカス・グループ・インタビューによる調査. Library and Information Science. 2009, no. 62, p. 1-27. 日本の大学図書館業務電算化における課題構造の解明. 三田図書館・情報学会研究大会発表論文集. 2006年度, p.17-20. (2006年11月11日 慶應義塾大学三田キャンパス)
- 10) 大学図書館における館員数の現状と課題. 三田図書館・情報学会研究大会発表論文集. 2007年度, p.5-8. (2007年11月10日 慶應義塾大学三田キャンパス)
- 11) 大学図書館における館員数の変化と課題. 日本図書館情報学会春季研究集会発表要綱. 2008年, p.119-122. (2008年3月29日 東京大学本郷キャンパス)
- 12) 大学図書館における資料費の変化と課題. 日本図書館情報学会研究大会発表要綱. 208, 第56回, p.1-4. (2008年11月15-16日 帝塚山大学)
- 13) わが国における図書館サービスの推移:1970年-2006年. 日本図書館情報学会研究大会発表要綱. 2009, 第57回, p.13-16. (2009年10月31日 明治大学)
- 14) 情報検索技術の発展が日本の大学図書館に及ぼした影響. 三田図書館・情報学会研究大会発表論文集. 2010年度, p.25-28. 2010年9月25日 (慶應義塾大学三田キャンパス)
- 15) 大学図書館における文献複写依頼件数の変化に関わる要因の整理. 日本図書館情報学会研究大会発表要綱. 2010, 第58回, p.13-16. 2010年10月9日-10日 (藤女子大学)
- 16) 変化への適応:大学図書館における業務分析と業務管理手法. 情報の科学と技術. 2011, 61(8), p.311-316. 大学図書館の現状分析のための枠組みの試案. 日本図書館情報学会春季研究集会発表要綱. 2011年, p.99-102. (2011年5月14日 東京学芸大学)

- ◆ ◆勤務先の図書館について、どのようにお考えですか？
- ◆

【問11】
図書館の内部業務について、どのようにお考えですか？

	Yes	No	不明
(1) データベースや電子ジャーナルなどの外部資源や、IT技術を活用している	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
(2) 組織の活性化、業務と組織の再構築に務めている	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
(3) 蔵書の重要性を認識し、サービスや予算を考慮した蔵書構築を行っている	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
(4) 業務電算化システム、ネットワーク、施設・設備などのインフラ整備を行なっている	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
(5) 将来計画の策定と実施を行なっている	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
(6) 図書館運営やサービス提供において、学生や教員との連携を行なっている	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
(7) 館内での業務分担や人員配置は、人材活用の自由度が高く、それを活かしている	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
(8) 情報化や学習環境の変化への対応を行っている	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

【問12】
顧客サービスについて、どのようにお考えですか？

	Yes	No	不明
(1) 学生の成長を支援している	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
(2) 学生と研究者の利用要求を満たして、その満足度は高い	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
(3) 利用者の要求を理解している	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
(4) 学習支援を重視している	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
(5) 機関リポジトリの実施に務めている	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
(6) 利用者研究や利用実態調査の実施に努めている	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
(7) 図書館の提供しているサービスに関して、学内での評価が向上している	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

【問13】
職員、人材育成、研修について、どのようにお考えですか？

	Yes	No	不明
(1) 館員は、利用者、他部署、同僚との十分なコミュニケーション能力を備えている	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
(2) サービス提供や教員連携を円滑に実現できる教養を、館員全体として備えている	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
(3) 図書館同士や業界関連のコミュニティー活動は活発である	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
(4) 図書館で人的資源管理(モチベーション維持、職員有効活用)を行なっている	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
(5) 館員は、熱意をもって業務に取り組み、業務遂行に達成感を見込んでいる	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

【問14】
経営管理について、どのようにお考えですか？

	Yes	No	不明
(1) 理事会、学長、事務局長などの大学のトップ層にはマネジメント能力がある	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
(2) 大学のミッションが確立し、教職員はミッションを理解して業務を遂行している	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
(3) 大学では、有効な人事制度の確立や人材活用を行なっている	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
(4) 図書館運営と大学経営との連携がある	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
(5) 図書館経営資源(人員、予算、施設・設備)を確保する努力がなされている	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
(6) 図書館経営計画を策定し、実施している	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
(7) 館長や事務組織上のトップ主導の経営がなされている	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
(8) 図書館のミッションが確立されている	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

- ◆ ◆勤務先の大学図書館において、内部環境としての「強み」と「弱み」についてと、
- ◆ また、外部環境としての「機会」と「脅威」について、どのようにお考えですか？
- ◆

理髪店を具体例とした回答例
 強み: 地域の顧客が多い、リピーター率が高い
 弱み: 新規の顧客が少ない、スタッフが育たない
 機会: 高齢者人口の増加、徒歩圏内に住宅街
 脅威: 若年者人口の減少、地域に競合店が多い

【問15】
顧客や設置母体から評価され、自信を持って提供できる「強み」(人材、資料、技術、環境)を、具体的にお書きください。

【回答】

【問16】
業務やサービスを展開する際に、図書館の「弱み」となっている事柄を、具体的にお書きください。

【回答】

【問17】

設置母体の大学や社会的状況で、業務やサービスを展開する際の「機会」や「チャンス」となる事柄を、具体的にお書きください。

【回答】

【問18】

設置母体の大学や社会的状況で、業務やサービスを展開する際の「障害」や「脅威」となる事柄を、具体的にお書きください。

【回答】

◆大学図書館員に必要な知識について、どのようにお考えですか？
◆

【問19】

資料・メディアに関する知識について、大学図書館員に必要な程度にチェックして下さい。

	ぜひ必要	どちらかといえば必要	あまり必要ない	不要
(1)出版流通／学術情報流通	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
(2)ネットワーク情報資源	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
(3)逐次刊行物	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
(4)電子ジャーナル	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
(5)分野別専門資料／情報源	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
(6)古典籍(西洋古典を含む)	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
(7)官庁刊行物・特許資料／情報	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
(8)その他の非図書資料、利用機器	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
(9)二次資料・参考図書と検索サービス	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
(10)資料選択	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
(11)コレクション構築と評価	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
(12)資料保存・保護・製本	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
(13)メディアの歴史	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

【問20】

組織に関する知識について、大学図書館員に必要な程度にチェックして下さい。

	ぜひ必要	どちらかといえば必要	あまり必要ない	不要
(1)資料目録法・Online目録System	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
(2)メタデータ	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
(3)分類法・件名法	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
(4)索引法、抄録法	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
(5)二次資料／データベース作成	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

【問21】

サービスに関する知識について、大学図書館員に必要な程度にチェックして下さい。

	ぜひ必要	どちらかといえば必要	あまり必要ない	不要
(1)レファレンス・サービス	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
(2)情報検索技術	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
(3)利用教育、情報リテラシー	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
(4)閲覧・貸出サービス	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
(5)ドキュメントデリバリーサービス	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
(6)知的財産権・著作権	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
(7)図書館ネットワーク・図書館協力	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
(8)障害者サービス	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
(9)利用者のプライバシー	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
(10)カスタマケア(問合せ・相談対応)	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

【問22】

マネジメントに関する知識について、大学図書館員に必要な程度にチェックして下さい。

	ぜひ必要	どちらかといえば必要	あまり必要ない	不要
(1)経営理論・手法	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
(2)大学行政	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
(3)予算管理・会計	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
(4)広報活動	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
(5)図書館関係法規・基準	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
(6)図書館建築・設備・備品	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

[問23]

その他の知識について、大学図書館員に必要な程度にチェックして下さい。

	ぜひ必要	どちらかといえば必要	あまり必要ない	不要
(1)図書館業務システムの運用, 管理	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
(2)データベース等の運用, 管理	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
(3)ネットワークの運用, 管理	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
(4)プログラミング	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
(5)ウェブコンテンツの構築, 管理	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
(6)主題専門知識	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
(7)外国語: 英語	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
(8)外国語: 英語以外	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
(9)プレゼンテーション技術	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
(10)文書・企画書の作成	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
(11)会話・接遇	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
(12)研究調査法	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
(13)利用教育, 職員研修での教授法	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
(14)知的自由・検閲	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
(15)外国大学図書館事情	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
(16)高等教育事情	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
(17)図書館史	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
(18)書誌学	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

[問24]

自由記入欄: 本調査に関するコメントや、大学図書館、図書館全般、高等教育などについてご自由にご記入ください。(この項目は、新たに追加しました)

[回答]

集計結果(見本)

大学図書館員の現状認識に関する意識調査の集計結果

回答者毎に閲覧

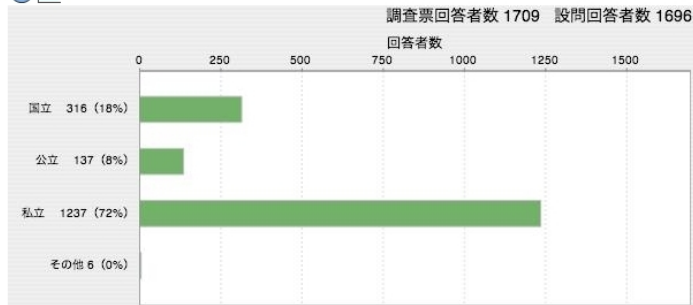
<input checked="" type="checkbox"/> 集計結果を実数で表示	<input checked="" type="checkbox"/> 平均値を表示(総称評定のみ)
<input checked="" type="checkbox"/> 集計結果をパーセント(%)で表示	<input checked="" type="checkbox"/> グラフを表示 <input checked="" type="radio"/> 選択数順 <input type="radio"/> 降順 <input type="radio"/> 昇順
<input checked="" type="checkbox"/> 無回答者数を除いて集計(パーセントの計算)	<input checked="" type="checkbox"/> 無回答者数も表示する

質問を1ページに1問ずつ表示
 自由記入回答を1ページに10件ずつ表示

[問1] 調査票回答者数 1709 / 設問回答者数 1696

勤務先の大学種別をお答えください。

国立	316(18%)
公立	137(8%)
私立	1237(72%)
その他	6(0%)
無回答	13(0%)

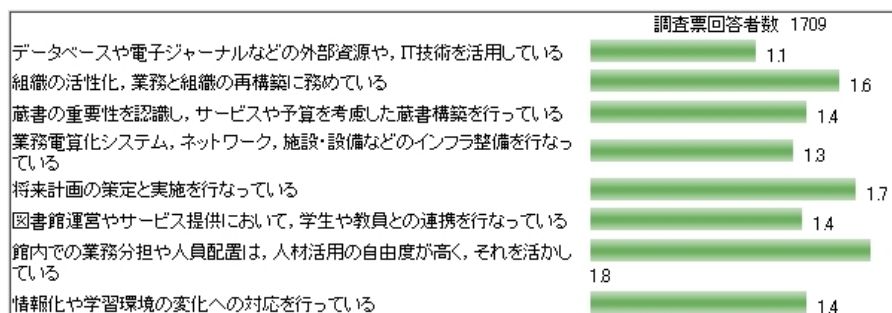


集計結果(見本)

[問11] 調査票回答者数 1709

図書館の内部業務について、どのようにお考えですか？

	Yes	No	不明	無回答	平均値
データベースや電子ジャーナルなどの外部資源や、IT技術を活用している	1526 (91%)	91 (5%)	51 (3%)	41 (2%)	1.1
組織の活性化、業務と組織の再構築に務めている	934 (56%)	325 (19%)	401 (24%)	49 (2%)	1.6
蔵書の重要性を認識し、サービスや予算を考慮した蔵書構築を行っている	1184 (71%)	196 (11%)	284 (17%)	45 (2%)	1.4
業務電算化システム、ネットワーク、施設・設備などのインフラ整備を行なっている	1277 (76%)	159 (9%)	225 (13%)	48 (2%)	1.3
将来計画の策定と実施を行なっている	848 (51%)	326 (19%)	484 (29%)	51 (2%)	1.7
図書館運営やサービス提供において、学生や教員との連携を行なっている	1180 (71%)	251 (15%)	227 (13%)	51 (2%)	1.4
館内での業務分担や人員配置は、人材活用の自由度が高く、それを活かしている	586 (35%)	671 (40%)	400 (24%)	52 (3%)	1.8
情報化や学習環境の変化への対応を行っている	1165 (70%)	229 (13%)	266 (16%)	49 (2%)	1.4



2012年2月3日

調査協力いただいた大学図書館 各位

私立大学図書館協会研究助成『大学図書館職員の意識調査』へのご協力のお礼

時下 ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

昨年は、ご多忙中にもかかわらず、私立大学図書館協会研究助成による標記調査にご協力いただきありがとうございます。このたび、調査を終了し、単純集計をまとめましたので、ご参考までに結果(10部)をお送りいたします。館員の皆様にご案内いただければ幸いです。

単純集計の結果(pdf版)は、大学図書館職員の意識調査のサイトにおいても公開いたします。詳細な調査結果については、私立大学図書館協会研究助成報告として、本年秋の私立大学図書館協会総会において発表させていただきます。その後、論文としての投稿を予定しております。調査データに関しては、発表や投稿の際には、回答者の所属機関や個人が特定できないように慎重に取り扱います。また、分析結果の公開など本調査に関わる追加情報は、以下のサイトから継続的にご案内いたします。

末筆ながら、貴学および皆様の更なるご発展をお祈り申し上げます。

私立大学図書館協会研究助成 2011年度個人研究

研究代表者 長谷川豊祐(鶴見大学図書館)

本調査に関わる問い合わせ先

鶴見大学図書館 長谷川豊祐

TEL: 045-580-8266 (ダイヤルイン)

E-mail: hasegawa-t@tsurumi-u.ac.jp

単純集計結果は以下からも閲覧できます。

「図書館員のためのインターネット」

<http://members3.jcom.home.ne.jp/toyohiroh/>(短縮 URL <http://goo.gl/QWYHr>)

2012年2月3日

「大学図書館員の現状認識に関する意識調査」単純集計結果

標記調査にご協力いただきありがとうございました。

このたび、調査を終了し、単純集計をまとめましたのでご覧ください。(調査票回答者数 1,709 名)
分析結果の公開など本調査に関わる追加情報は、以下のサイトから継続的にご案内いたします。

本調査に関わる問い合わせ先 鶴見大学図書館 長谷川豊祐
TEL: 045-580-8266 (ダイヤルイン) E-mail: hasegawa-t@tsurumi-u.ac.jp
この単純集計結果は以下からも閲覧できます。
「図書館員のためのインターネット」<http://members3.jcom.home.ne.jp/toyohiroh/>
(短縮 URL <http://goo.gl/QWYHr>)

[問 1]勤務先の大学種別をお答えください。設問回答者数 1,696 名

	人数	割合
国立	316	18.6%
公立	137	8.1%
私立	1,237	72.9%
その他	6	0.4%
計	1,696	100.0%

[問 2]職務内容についてお答えください。設問回答者数 1,694 名

(注 1: 管理職には、館長から、課長補佐相当以上を含みます)

	人数	割合		人数	割合
管理職(注 1)	239	14.1%	閲覧	312	18.4%
庶務・会計	74	4.4%	参考	85	5.0%
情報処理	59	3.5%	複写	56	3.3%
受入	171	10.1%	業務全般	445	26.3%
整理	153	9.0%	その他	100	5.9%
			計	1,694	100.0%

[問 3]資格等についてお答えください。設問回答者数 1,497 名

(注 2: 情報検索能力試験には、データベース検索技術者認定試験を含みます)

(注 3: 国家公務員試験には、II 種試験[書館学], 上級・中級試験[図書館学], 国立学校図書専門職員採用試験を含みます)

	人数	割合
情報処理技術者	98	6.5%
情報検索能力試験(注 2)	122	8.1%
司書	1,282	85.6%
司書補	26	1.7%
国家公務員試験, 国立大学法人等職員採用試験(注 3)	211	14.1%
その他	200	13.4%
計	1,939	129.5%

[問 4]性別についてお答えください。設問回答者数 1,688 名

	人数	割合
男	456	27.0%
女	1,232	73.0%
計	1,688	100.0%

[問 5]最終学歴についてお答えください。設問回答者数 1,689 名

	人数	割合
高校	58	3.4%
短大	253	15.0%
高専	8	0.5%
大学	1,185	70.2%
大学院	173	10.2%
その他	12	0.7%
計	1,689	100.0%

[問 6]勤務形態についてお答えください。その他:パート, アルバイト 設問回答者数 1,680 名

	人数	割合
専任	940	56.0%
非常勤・嘱託	252	15.0%
派遣	134	8.0%
委託	299	17.8%
その他	55	3.3%
計	1,680	100.0%

[問 7]年齢についてお答えください。設問回答者数 1,681 名

	人数	割合		人数	割合
19 歳以下	0	0.0%	45～49 歳	185	11.0%
20～24 歳	51	3.0%	50～54 歳	176	10.5%
25～29 歳	261	15.5%	55～59 歳	140	8.3%
30～34 歳	320	19.0%	60 歳以上	79	4.7%
35～39 歳	260	15.5%	計	1,681	100.0%
40～44 歳	209	12.4%			

[問 8]通算図書館勤務年数についてお答えください。設問回答者数 1,681 名

	人数	割合		人数	割合
1 年未満	144	8.6%	26～30 年	86	5.1%
1～5 年	527	31.4%	31～35 年	65	3.9%
6～10 年	379	22.5%	36～40 年	41	2.4%
11～15 年	194	11.5%	41 年以上	8	0.5%
16～20 年	142	8.4%	計	1,681	100.0%
21～25 年	95	5.7%			

[問 9]役職名についてご記入ください。設問回答者数 1,156 名

[問 10]所属部・課・係名についてご記入ください。設問回答者数 1,402 名

以下、 回答数=Yes 数+No 数+不明数, 平均=((Yes 数 x 1) + (No 数 x -1) +(不明数 x 0))/回答数

[問 11]図書館の内部業務について、どのようにお考えですか？ 平均:最大+1.0, 最小-1.0

	Yes	No	不明	回答数	平均
データベースや電子ジャーナルなどの外部資源や, IT 技術を活用している	1,526	91	51	1,668	0.9
業務電算化システム, ネットワーク, 施設・設備などのインフラ整備を行なっている	1,277	159	225	1,661	0.7
蔵書の重要性を認識し, サービスや予算を考慮した蔵書構築を行っている	1,184	196	284	1,664	0.6
図書館運営やサービス提供において, 学生や教員との連携を行なっている	1,180	251	227	1,658	0.6
情報化や学習環境の変化への対応を行っている	1,165	229	266	1,660	0.6
組織の活性化, 業務と組織の再構築に務めている	934	325	401	1,660	0.4
将来計画の策定と実施を行なっている	848	326	484	1,658	0.3
館内での業務分担や人員配置は, 人材活用の自由度が高く, それを活かしている	586	671	400	1,657	-0.1

[問 12]顧客サービスについて、どのようにお考えですか？ 平均:最大+1.0, 最小-1.0

	Yes	No	不明	回答数	平均
学生の成長を支援している	1,337	114	206	1,657	0.7
学習支援を重視している	1,277	156	223	1,656	0.7
利用者の要求を理解している	922	202	529	1,653	0.4
機関リポジトリの実施に務めている	867	482	303	1,652	0.2
利用者研究や利用実態調査の実施に努めている	742	488	418	1,648	0.2
学生と研究者の利用要求を満たして, その満足度は高い	517	315	824	1,656	0.1
図書館の提供しているサービスに関して, 学内での評価が向上している	458	251	943	1,652	0.1

[問 13]職員,人材育成,研修について,どのようにお考えですか? 平均:最大+1.0, 最小-1.0

	Yes	No	不明	回答数	平均
館員は,熱意をもって業務に取り組み,業務遂行に達成感を見込んでいる	938	193	510	1,641	0.5
館員は,利用者,他部署,同僚との十分なコミュニケーション能力を備えている	800	409	439	1,648	0.2
サービス提供や教員連携を円滑に実現できる教養を,館員全体として備えている	512	584	547	1,643	0.0
図書館同士や業界関連のコミュニティー活動は活発である	603	533	507	1,643	0.0
図書館では人的資源管理(モチベーション維持,職員有効活用)を行なっている	538	574	527	1,639	0.0

[問 14]経営管理について,どのようにお考えですか? 平均:最大+1.0, 最小-1.0

	Yes	No	不明	回答数	平均
図書館経営資源(人員,予算,施設・設備)を確保する努力がなされている	732	407	497	1,636	0.2
理事会,学長,事務局長などの大学のトップ層にはマネジメント能力がある	428	311	902	1,641	0.1
大学のミッションが確立し,教職員はミッションを理解して業務を遂行している	505	284	848	1,637	0.1
図書館経営計画を策定し,実施している	585	386	659	1,630	0.1
館長や事務組織上のトップ主導の経営がなされている	629	395	607	1,631	0.1
図書館のミッションが確立されている	596	390	647	1,633	0.1
図書館運営と大学経営との連携がある	481	478	675	1,634	0.0
大学では,有効な人事制度の確立や人材活用を行なっている	278	521	836	1,635	-0.1

[問 15]顧客や設置母体から評価され,自信を持って提供できる「強み」(人材,資料,技術,環境)を,具体的にお書きください。設問回答者数 1,167 名

[問 16]業務やサービスを展開する際に,図書館の「弱み」となっている事柄を,具体的にお書きください。設問回答者数 1,202 名

[問 17]設置母体の大学や社会的状況で,業務やサービスを展開する際の「機会」や「チャンス」となる事柄を,具体的にお書きください。設問回答者数 983 名

[問 18]設置母体の大学や社会の状況で,業務やサービスを展開する際の「障害」や「脅威」となる事柄を,具体的にお書きください。設問回答者数 1,088 名

以下, 平均= $((\text{ぜひ必要} \times 4) + (\text{どちらかといえば必要} \times 3) + (\text{あまり必要ない} \times 2) + (\text{不要} \times 1)) / \text{回答数}$ 平均: 最大+4.0, 最小+1.0
[注:本文中で示す結果では, 以下に重み付けを修正]
以下, 平均= $((\text{ぜひ必要} \times 2) + (\text{どちらかといえば必要} \times 1) + (\text{あまり必要ない} \times 0) + (\text{不要} \times -1)) / \text{回答数}$ 平均: 最大 +2.0, 最小 -1.0

[問 19]資料・メディアに関する知識について,大学図書館員に必要な程度にチェックして下さい。

	ぜひ必要	どちらか といえば 必要	あまり必 要ない	不要	回答数	平均
電子ジャーナル	1,260	299	8	3	1,570	3.8
ネットワーク情報資源	1,156	402	9	4	1,571	3.7
逐次刊行物	1,054	486	27	2	1,569	3.7
二次資料・参考図書と検索サービス	1,147	394	24	3	1,568	3.7
分野別専門資料／情報源	959	585	23	1	1,568	3.6
資料選択	1,029	499	35	5	1,568	3.6
出版流通／学術情報流通	817	700	47	2	1,566	3.5
資料保存・保護・製本	817	668	73	8	1,566	3.5
コレクション構築と評価	724	702	126	14	1,566	3.4
官庁刊行物・特許資料／情報	481	906	176	5	1,568	3.2
その他の非図書資料, 利用機器	408	1,001	147	7	1,563	3.2
古典籍(西洋古典を含む)	336	953	262	19	1,570	3.0
メディアの歴史	192	899	439	38	1,568	2.8

[問 20]組織化に関する知識について、大学図書館員に必要な程度にチェックして下さい。

	ぜひ	どちらか	あまり	不要	回答数	平均
資料目録法・Online 目録 System	1,117	408	22	1	1,548	3.7
分類法・件名法	976	520	50	3	1,549	3.6
メタデータ	650	795	96	2	1,543	3.4
二次資料/データベース作成	661	768	111	4	1,544	3.4
索引法, 抄録法	631	777	132	5	1,545	3.3

[問 21]サービスに関する知識について、大学図書館員に必要な程度にチェックして下さい。

	ぜひ	どちらか	あまり	不要	回答数	平均
レファレンス・サービス	1,432	130	4	2	1,568	3.9
情報検索技術	1,434	129	1	2	1,566	3.9
利用教育, 情報リテラシー	1,328	229	2	3	1,562	3.8
利用者のプライバシー	1,193	351	15	3	1,562	3.8
閲覧・貸出サービス	1,158	358	41	5	1,562	3.7
知的財産権・著作権	1,141	399	18	2	1,560	3.7
図書館ネットワーク・図書館協力	1,115	430	14	3	1,562	3.7
カスタマケア(問合せ・相談対応)	1,111	425	21	4	1,561	3.7
障害者サービス	725	755	78	4	1,562	3.4
ドキュメントデリバリーサービス	594	811	138	10	1,553	3.3

[問 22]マネジメントに関する知識について、大学図書館員に必要な程度にチェックして下さい。

	ぜひ	どちらか	あまり	不要	回答数	平均
広報活動	1,012	483	47	6	1,548	3.6
図書館関係法規・基準	855	623	63	4	1,545	3.5
図書館建築・設備・備品	669	793	78	6	1,546	3.4
予算管理・会計	766	672	93	13	1,544	3.4
経営理論・手法	466	837	218	22	1,543	3.1
大学行財政	460	840	223	21	1,544	3.1

[問 23]その他の知識について、大学図書館員に必要な程度にチェックして下さい。

	ぜひ	どちらか	あまり	不要	回答数	平均
会話・接遇	1,214	326	16	3	1,559	3.8
図書館業務システムの運用, 管理	1,115	411	24	3	1,553	3.7
データベース等の運用, 管理	1,031	475	46	6	1,558	3.6
主題専門知識	810	666	71	6	1,553	3.5
外国語: 英語	818	695	41	6	1,560	3.5
文書・企画書の作成	835	633	88	4	1,560	3.5
利用教育, 職員研修での教授法	888	574	86	6	1,554	3.5
プレゼンテーション技術	744	676	128	8	1,556	3.4
ネットワークの運用, 管理	745	669	124	12	1,550	3.4
研究調査法	778	651	120	6	1,555	3.4
知的自由・検閲	532	836	173	11	1,552	3.2
書誌学	489	838	205	21	1,553	3.2
ウェブコンテンツの構築, 管理	472	841	221	20	1,554	3.1
高等教育事情	428	870	234	22	1,554	3.1
外国大学図書館事情	259	999	276	26	1,560	3.0
外国語: 英語以外	257	976	302	17	1,552	2.9
図書館史	278	850	390	34	1,552	2.9
プログラミング	129	718	617	91	1,555	2.6

[問 24]自由記入欄 設問回答者数 472 名

【予備調査による調査項目決定の詳細】

経営管理手法の一つである SWOT 分析¹⁻³⁾により、大学図書館の現状について、外部要因(機会、脅威)と内部要因(強み、弱み)によって、大学図書館員からデータを収集した。更に、戦略策定ツールである SWOT 分析にバランスト・スコアカード(以下、BSC)⁴⁾の現状分析に適用できる部分を加えて、大学図書館の現状を分析した。BSC は経営戦略実現のための評価指標や戦略実行のツールとして用いられている。SWOT 分析によるデータ収集と分析を以下の手順で実施した。

- 1) Johnson, Heather. “Strategic Planning for Modern Libraries,” *Library Management*, Vol. 15 No. 1, 1994, p. 7-18.
- 2) Fernandez, Joe. “A SWOT Analysis for Social Media in Libraries,” *Online*. Vol. 33, No. 5, 2009, p. 35-37.
- 3) 嶋田利広, 馬服一生, 山之内浩明『中小企業の SWOT 分析 : 会計事務所とつくるノウハウと実例』マネジメント社, 2009. 11, 193p.
- 4) Kaplan, Robert S. and Norton, David P. 『バランスト・スコアカードによる戦略実行のプレミアム : 競争優位のための戦略と業務活動とのリンケージ』[*The Execution Premium : Linking Strategy to Operations for Competitive Advantage*] 櫻井通晴, 伊藤和憲監訳, 東洋経済新報社, 2009. 4, 389p.

1)SWOT 分析によるデータ収集(表 1)

調査対象者は、大学図書館員 9 名、図書館情報学専攻大学院生 1 名とした。図書館員の約半数の 4 名は管理職であった。データは、グループインタビューと電子メールにより収集した。収集した SWOT 分析用データは、「機会」37 件、「脅威」40 件、「強み」40 件、「弱み」53 件、合計 170 件だった。

表 1 SWOT 分析とクロス分析

		外部要因	
		機会 37 件 Opportunity	脅威 40 件 Threat
内部 要 因	強み 40 件 Strength	【積極戦略】強みを活かして機会を最大限に活用する戦略	【差別化戦略】外部の脅威を回避しながら強みを活かす戦略
	弱み 53 件 Weakness	【改善戦略】弱みが原因で機会を逸失しない戦略	【致命傷回避・撤退縮小戦略】弱みが原因で脅威が増長して最悪にならない戦略

2)データ内容の確認

調査対象者に、データの内容について不明な点を電話やメールにより確認した。

3)SWOT 全データの統合(表 2)

調査対象者を交えてデータを精査した結果は、機会：5 項目、脅威：6 項目、強み：8 項目、弱み：7 項目に集約できた。クロス分析による戦略策定は分析対象に含めなかった。

表 2 SWOT 分析データ

	機会 Opportunity 5 項目	脅威 Threat 6 項目
外部要因	<ul style="list-style-type: none"> ・図書館運営と大学経営との連携(私立大学本部の図書館運営会議や国立大学の図書館担当理事など、経営の効率化、新しもの好きの経営者) ・<u>学生の成長の支援</u>(学士力、就業力、社会人基礎力、初年次教育、学士課程改革) ・データベースや電子ジャーナルなどの外部資源や、IT 技術の活用(データベースの発達、電子化の進行) ・運営の効率化(評価指標、達成度評価) ・情報化や学習環境の変化への適応(情報化社会の進展、インターネットの普及、情報検索の一般化、情報発信へ転換) 	<ul style="list-style-type: none"> ・大学のミッションが確立しておらず、教職員が業務遂行でミッションを理解していない(ミッションの各部署や業務単位へのブレイクダウンができていない、大学像) ・図書館経営資源(人員、予算、施設・設備)の削減(コスト削減の最優先化、少人数スタッフ、業務委託) ・利用者の要求を理解していない(独りよがりな図書館、利用要求多様化や利用行動の変化への対応) ・組織の活性化、業務と組織の再構築への取り組みがない(競合する情報サービス、余裕の消失) ・理事会、学長、事務局長などの大学のトップ層にはマネジメント能力がない ・大学には、有効な人事制度の確立や人材活用がない(技術よりパーソナリティに優れた人材確保、キャリアパスや雇用の不安定化、人材像、ビジョンの共有、組織風土の維持)
	強み Strength 8 項目	弱み Weakness 7 項目
内部要因	<ul style="list-style-type: none"> ・学習支援を重視(情報リテラシー、ラーニングコミュニティ、機関リポジトリと人的支援の両輪) ・機関リポジトリによる研究支援 ・蔵書の蓄積と重要性の再評価、サービスや予算を考慮した蔵書構築(共通経費化) ・<u>業務電算化システム、ネットワーク、施設・設備などのインフラ整備</u> ・図書館内部での人材活用における自由度の高さを活用(業務分担、人員の配置、業務委託先の成熟) ・<u>前向きな図書館員、サービス精神の旺盛さ、自己啓発の機会</u>(リエゾンライブラリアン:連絡調整担当図書館員、「御用聞き」) ・個々の館の特徴の活用(中央館の専任率の高さ、小規模館の小回りの良さ) ・図書館や業界関連のコミュニティー充実(研究会、業界団体、図書館コンソーシアム) 	<ul style="list-style-type: none"> ・図書館のミッションが確立されていない ・館長や事務組織上のトップ主導の経営がない(戦略と経営力) ・図書館の提供しているサービスへの学内での評価が薄い(成果の可視化、アピール力の不足) ・利用者研究・連携がない(学生、教員、学科との協働、利用者のセグメント化、利用者満足度調査) ・業務の再構築、将来計画の策定・実施がない(制度、組織披露) ・施設、設備の老朽化(資料収納スペース狭小化) ・図書館では持続的な人的資源管理がない(モチベーションの維持、前向きな職員と成長の望めない職員などのバラツキ、団塊世代のリタイヤ、世代間格差より個人差の拡大、従業員の満足度)

4)BSC の 4 つの視点での細分化(表 3)

大学図書館の現状を更に経営的な視点で分析するために、SWOT 分析のデータを、BSC における 4 つの視点である、財務(予算、経営)、顧客(利用者、競争相手、市場)、プロセス(内部業務、関連業界)、成長(学習、人材、文化)を適用して 16 の区分に細分し、検討会における資料とした。

表3 バランススト・スコアカードの視点で細分化したSWOT分析（カッコ内：管理職データ件数）

170件 (65件)	機会 37件(13件)	脅威 40件(16件)	強み 40件(12件)	弱み 53件(24件)
32(15)	4(3)	11(5)	3(2)	14(5)
財務	経営の効率化の追求 新しもの好きの経営者 増額はなく減額もない	少子化と大学財政 大学の経営不安 経費、人員の削減 費用対効果への圧力	学習支援への予算拡大 予算執行の裁量	資料費、運営費の削減 戦略、経営力の弱さ 成果の不十分な可視化 アピール力の不足
30(11)	15(3)	9(4)	3(2)	3(2)
顧客	初年次教育 学士課程改革 研究スタイルの変化 元気な(女子)学生	読書離れ(活字離れでは ない) 競合する情報サービス 利用要求の多様化	学習支援の重視 情報リテラシー 地域連携(山の手コンソ ーシアムなど)	利用要求の多様化 独りよがりな図書館 (LibQUAL+等の既存ソール での顧客調査が必要)
62(30)	11(5)	12(6)	22(7)	17(12)
プロセス	データベースの発達 電子雑誌 電子化の進行 業務委託先の成熟	業務量の増大 業務委託の進行 余裕の消滅 雇用の不安定化 情報センターの影響拡大	蔵書の蓄積 学内連携の重要性 ICT環境整備 サービス精神の旺盛さ 中央館の専任率の高さ 小規模館の小回りの良さ	資料収納スペース狭隘化 施設、設備の老朽化 資料重複、二重書誌 制度、組織疲労 専任職員の負担増
46(9)	7(2)	8(1)	12(1)	19(5)
成長	情報化社会の進展 インターネットの普及 情報検索の一般化	職員育成の困難 技術継承の低下 組織風土の維持困難(業 務委託と異動に由来) 希求図書館像との差	自己開発の機会 多様な要望での成長 業界コミュニティの存在 前向きな図書館員	意欲、専門知識の低下 能力のばらつき 団塊世代のリタイヤ 成長しない図書館員 現場と研究の連携不足

5) 検討会によるデータの精査

調査対象者のうち4名により、収集したデータのSWOT分析検討会を2回(3月29日、4月7日)実施した。第1回では、個々のデータ区分を点検し、さらに、外部要因と内部要因を組み合わせたクロス分析を簡略に試行することによって、データの内容自体も点検した。外部要因の「脅威」と内部要因の「弱み」を混同しない等。

6) 検討会によるデータの要約(表4)

現実に個々の大学図書館において戦略を策定する際に、大学図書館一般の現状や取り組まなければならない課題を正確に理解する必要がある。そのため、状況を現す個々のデータについて、「機会」と「強み」については現状を強化する方向で、「脅威」と「弱み」については現状への対策の方向から検討した。第2回では、以上の方向から、SWOT分析とBSCの視点によって16の区分に振り分けたデータを精査し、各区分の内容を要約した。

表4 大学図書館の現状分析の項目

	機会	脅威	強み	弱み
財務	・大学経営との連携がある*1	・大学に本物のミッションが確立している ・図書館経営資源の確保に務めている	・図書館経営計画を実施している ・図書館の学内での評価向上がある	・図書館トップマネジメントがある ・図書館ミッションの確立に努めている
顧客	・学生の成長(学士力)を支援している	・利用者の理解に努めている	・学習支援の重視がある ・リポジトリでの研究支援がある*2	・利用者研究の実施に務めている
プロセス	・外部資源(DB,EI)やIT技術を活用している	・組織の活性化、業務と組織の再構築に務めている	・蔵書構築を再評価している ・インフラ整備がある*3	・将来計画の策定と実施に務めている
成長	・人材活用の自由度の高さを活かしている ・情報化への適応がある*4	・大学トップにマネジメント能力がある ・大学も有効な人事制度の確立に務めている*5	・図書館員に幅広い教養がある*6 ・関連コミュニティの活性化がある*7	・持続的な人的資源管理に務めている*8

*1:私立大学本部の図書館運営会議, 国立大学の図書館担当理事など

*2:人的支援の両輪

*3:図書館業務システムなど

*4:情報発信への転換など

*5:技術よりパーソナリティに優れた人材確保など

*6:利用者対応のための幅広い教養, リエゾンライブラリアン(連絡調整担当図書館員), 「御用聞き」など

*7:図書館・地域コミュニティ, コンソーシアムなど

*8:モチベーションの維持, 前向きな職員の活用, 成長の望めない職員, 世代間格差より個人差など

7)参考：BSCによる全体最適化のシナリオ

BSC(図)は、全体最適化のために、経営、顧客、プロセス、成長という4つの視点から、組織のビジョンと戦略を実現する経営管理手法である。財務の視点は予算や経営、成長の視点は学習や人材や文化、プロセスの視点は内部業務や関連業界、顧客の視点は利用者や競争相手である。

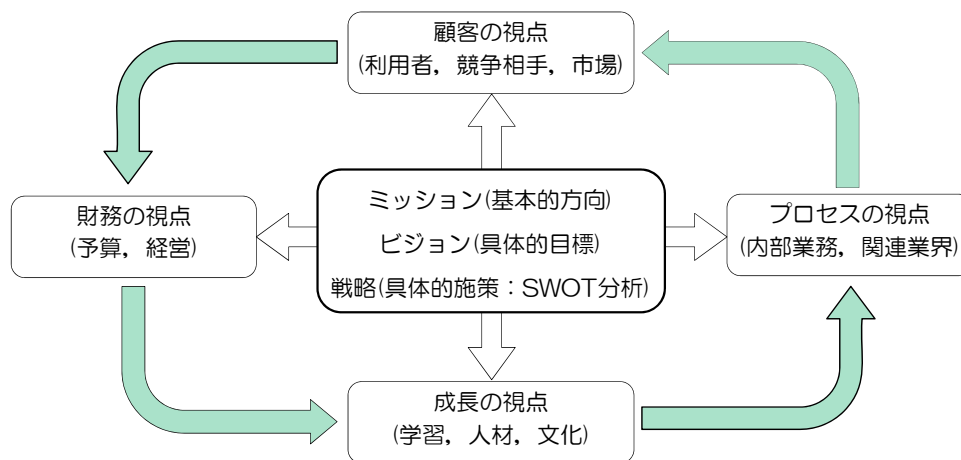


図 バランスド・スコアカードの枠組み

SWOT分析で例示として策定した「学生の成長支援戦略」により、簡略な戦略マップを作成する(表5)。戦略マップは、4つの視点別に設定される複数の戦略目標の因果関係と、個々の戦略目標の評価の

指標をまとめた表である。一口で表現すれば、戦略を実現するための構造化されたシナリオである。戦略マップは、経営層や担当者を交えて SWOT 分析のデータを精査して作成する。この共同作業により情報や認識の共有化が実現し、戦略の実現を推進する要因となる。

表 5 戦略マップと評価指標

	戦略目標	重要成功要因	業績評価指標	ターゲット	アクションプラン
顧客	学生の成長	学士力の向上支援	授業連携の数 貸出冊数増加	1~3%増	アカデミックスキル などの講習
↑ 成長/ プロセス	インフラの整備 学習支援の企画 職員の能力向上	改修とリプレース 効果的な支援企画 意識改革, 職員育成	PC 台数性能向上 催し物開催回数	現状+10 台 5 回/年	職員との継続的なミ ニ・ミーティング
↑ 財務	職員数の確保 施設設備予算の確保	学習支援寄与の可視化	運営費の増加	設備の経費	了解性を高める可 視化データで説明

(表 5)三列目の重要成功要因は、戦略目標を達成するための活動内容である。隣の列の業績評価指標は、重要成功要因の成果を評価するための指標である。ターゲットは、業績評価指標の目標数値である。

(表 5)二列目の戦略目標の単純化した因果関係は、「予算と職員の確保」による「インフラ整備」と、「職員の能力向上」を確保し、それによって「学生の成長を達成する」という流れになる。ここでは顧客の視点を上位目標としているが、上位戦略との関係で視点の順番は変更されることもある。

(表 5)二行目の「学生の成長」に関わる個々の評価指標では、「学士力の向上支援」が重要な役割を果たし、「アカデミックスキル講習」などを実施し、その成果は「貸出冊数の増加」で測り、年間で1%~3%の増加を数値基準とする。前年よりの「授業連携の数」の増加も評価指標に「できる。評価結果のフィードバックにより業務改善の PDCA サイクルも維持できる。